

第2次帯広市食育推進計画

平成24年度～平成28年度



帯 広 市

平成24年3月

目次

第1章 計画の策定について

1. 計画策定の背景と趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 第1次計画の主な取り組み状況・・・・・・・・・・・・ 3
3. 帯広市の食育の現状と取り組みの方向性について・・・・・・・・ 10

第2章 計画の基本的な考え方について

1. 計画の位置付け・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
2. 計画期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
3. 基本理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
4. 基本方針と基本施策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
5. 食育推進にあたっての数値目標・・・・・・・・・・・・ 21

第3章 施策の展開について

1. 食を通じて健全な「身体」を育む・・・・・・・・・・・・ 22
2. 食を通じて豊かな「心」を育む・・・・・・・・・・・・ 29
3. 食を通じて元気な「地域」を育む・・・・・・・・・・・・ 35

第4章 計画の推進体制と進捗管理について

1. 推進体制・進捗管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
2. 食育推進にあたっての役割・・・・・・・・・・・・・・ 42

参考資料

- 用語の説明・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
- 平成22年度食育に関するアンケート集計結果・・・・・・・・・・ 51

第1章 計画の策定について

1. 計画策定の背景と趣旨

「食」は命の源であり、健康で豊かな生活を送るためには欠かせないものです。

食育は、身体の健康の維持、成長発育の増進とともに、人と人とのつながりを通して心の豊かさを育むなど、私たちの心身両面の健全な発達に深くかかわっています。

また、地域の特性をいかした食生活の実践や地域産業への理解の促進など、食を通じて地域の活性化を促進する役割も担っています。

しかしながら近年、高齢者世帯や単独世帯、共働きの増加などといった社会構造の変化やライフスタイル、価値観の多様化などにより、食を取り巻く環境は大きく変化しています。

また、市販の惣菜・弁当の利用や外食など食の簡便化や外部化もすすむとともに、食生活の乱れなどが依然として問題となっています。

帯広市では、平成17年6月に制定された食育基本法に基づき、平成19年9月に帯広市食育推進計画（以下、「第1次計画」と記載）を策定し、家庭、保育所、学校、地域、関係団体等が連携を図りながら食育を推進してきました。

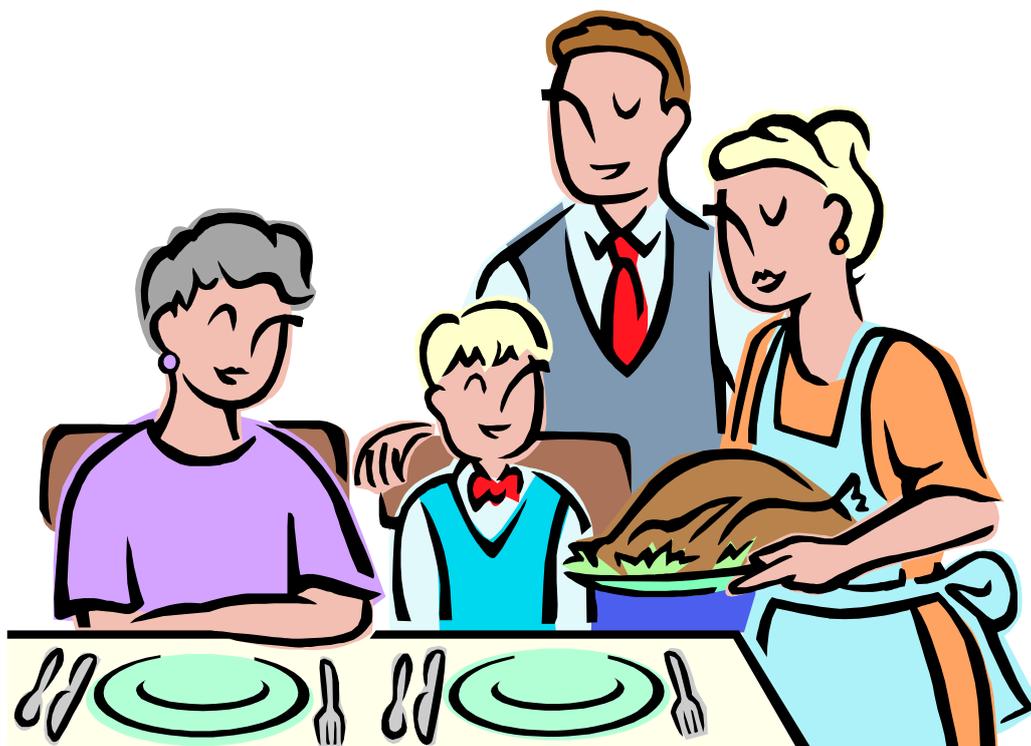
こうした取り組みにより、市民の食育に対する関心は徐々に高まってきているものの、食育への関心や理解が実践には十分に結びついていない状況にあります。

食にかかわる多くの課題が依然残るなか、これまでの取り組みの成果と課題を踏まえ、引き続き食育に関する施策を総合的に推進するため、第2次帯広市食育推進計画を策定します。

食育とは

食育基本法では…

食育とは、生きるうえでの基本であって、知育・徳育・体育の基礎となるものであり、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることと位置付けています。



2. 第1次計画の主な取り組み状況

市民一人ひとりが生涯にわたって健康で豊かな生活を実践するために、家庭、保育所、学校、地域、関係団体等が連携を図りながら食育を推進してきました。

(1) 第1次計画の概要

(計画期間) 平成19年度～平成23年度

帯広市における食をめぐる現状と課題を踏まえ、食育の推進により、市民一人ひとりが生涯にわたって健康な生活を送れるよう、5つの基本目標を定めました

<現状と課題>

- 食生活の乱れ
- 栄養バランスの偏り
- 食を大切にする意識の薄れ
- 食文化の希薄化
- 食の安全・安心への関心の高まり

<5つの食育の基本目標>

- 規則正しい食習慣と栄養バランスの取れた食事を実践する
- 楽しく食べる習慣を身につける
- 食への感謝の心を育む
- 農業や伝統的な食文化への理解を深める
- 地場産食材を使った豊かな食生活を実践する

(2) これまでの主な取り組み

家庭における食育の推進

- ◆ 保育所や小中学校の保護者に対して、給食の献立表に食生活の大切さを伝える情報を提供し、食育の普及啓発に努めました。
- ◆ 年中児から小学 1 年生までの子どもとその父親を対象とした「パパと子の料理教室」を実施し、家族で食を楽しむ機会を提供しました。
- ◆ 妊婦及び夫を対象とした「ほんわかファミリー教室」などにより食生活指導や情報提供、乳幼児健診時における保護者への栄養指導・相談を実施しました。
- ◆ 小学生とその保護者を対象とした「帯広っ子農業体験学校」を開校し、生産現場で農作物の作付けや収穫の体験などを行い、家族で農業にふれる機会を提供しました。

保育所等における食育の推進

- ◆ こどもの日、ひな祭り等の伝統行事にあわせた給食を提供するほか、地元産食材を利用した「ふるさと給食」を実施しました。
- ◆ 保護者を対象に、乳幼児期の食の大切さを伝えるため、様々な食に関するテーマを設定した「食育ミニ講座」を実施しました。
- ◆ 帯広の森市民農園の学童農園を利用し、馬鈴薯やとうもろこしなどについて、作付けから収穫までの農作業体験を実施しました。

学校における食育の推進

- ◆ 給食だよりや食育リーフレットを作成、配布し、児童生徒や保護者へ食育の啓発を図りました。
- ◆ 地元農業者による講話や地元産原料を使用したピザづくり教室を実施しました。
- ◆ 地元の農畜産物を使用した特別献立の「ふるさと給食」や児童生徒自らが、栄養バランスを考えて献立を選択する「バイキング給食」を実施しました。
- ◆ 学校栄養職員が学校を訪問し、正しい食習慣や栄養のバランス、食事のマナーなど、食に関する指導を行いました。

地域における食育の推進

- ◆ 食育をテーマとした事業を行政や関係団体等が連携し合同で実施する、「食育フェスティバル」を開催しました。
- ◆ バランスの良い食事や献立に関する教室の開催や食生活に関する相談等を実施し、生活習慣病の予防に取り組みました。

生産者と消費者の交流をととした食育の推進

- ◆ 消費者が直接生産現場を訪問し、農業理解を図る「安全・安心バスツアー」を実施しました。
- ◆ 帯広の森市民農園の「おはよう朝市」やとかち大平原交流センターの「夕市」を開催し、農畜産物の直売を実施したほか、帯広市内の直売所マップを作成しました。

(3) 第1次計画の目標数値と達成状況

第1次計画では、食育の推進、基本目標の達成に関する状況を客観的な指標により把握するため、定量的な目標値を設定し、本市の食育を推進してきました。

9つの各指標の数値は、計画策定時よりおおむね向上しており、市民の食育に対する関心の高まりなど一定の成果がありました。

その一方で、指標のすべてにおいて目標数値を下回っているほか、依然として食に関する様々な課題が残るなど、引き続き、家庭・保育所・学校・地域・関係団体等が連携した取り組みをすすめていく必要があります。

①朝食を欠食する市民の割合の減少

朝食を欠食する人の割合については、計画時より小学生では0.8ポイント、中学生では1.7ポイント減少していますが、保護者については、計画時より1.2ポイントの増加となっています。

○朝食を欠食する人の割合

	計画時	実績	目標
小学生	2.9%	2.1%	0%
中学生	4.9%	3.2%	0%
保護者	14.9%	16.1%	10%以下

※実績：食育に関するアンケート（平成22年度）より

②野菜と牛乳・乳製品の摂取量の増加

野菜を1日3回食べる人の割合については、計画時より児童生徒では5.4ポイント、保護者では1.7ポイント増加したものの、いずれも目標を下回っています。

○野菜を1日3回食べる人の割合

	計画時	実績	目標
児童生徒	21.6%	27.0%	45%以上
保護者	22.1%	23.8%	45%以上

※実績：食育に関するアンケート（平成22年度）より

牛乳・乳製品を週5日以上摂る人の割合については、計画時より児童生徒では0.5ポイントの減少、保護者では0.8ポイントの増加となっており、いずれも目標を下回っています。

○牛乳・乳製品を週5日以上摂る人の割合

	計画時	実績	目標
児童生徒	67.9%	67.4%	95%以上
保護者	39.5%	40.3%	55%以上

※実績：食育に関するアンケート（平成22年度）より

③自身の適正体重を知っている市民の増加

適正体重を知っている人の割合については、計画時より1.5ポイント増加と なっていますが、目標をわずかに下回っています。

○適正体重を知っている人の割合

	計画時	実績	目標
保護者	86.1%	87.6%	90%以上

※実績：食育に関するアンケート（平成22年度）より

④農業体験をしたことのある市民の増加

農業（畑作・酪農）体験をしたことのある人の割合については、計画時より児童生徒では 8.6 ポイント、保護者では 7.5 ポイント増加したものの、いずれも目標をわずかに下回っています。

○農業（畑作・酪農）体験をしたことのある人の割合

	計画時	実績	目標
児童生徒	79.2%	87.8%	90%以上
保護者	79.8%	87.3%	90%以上

※実績：食育に関するアンケート（平成 22 年度）より

農業についての体験や、知ることのできる機会があることの満足度については、次期の総合計画策定に伴い市民意向調査が終了したことから、平成 22 年度実績数値はありませんが、一般市民を対象としたアンケートにおいて、「農作業体験をしたことがある」と回答した割合はおおむね 7 割（69.3%）となっています。

○農業についての体験や、知ることのできる機会があることの満足度

	計画時	実績	目標
市民	36.0%	34.3%	70%以上

実績：平成 21 年度市民意向調査より

酪農教育ファームの戸数については、計画時と同様の 2 戸となっています。

○酪農教育ファームの数

	計画時	実績	目標
ファーム数	2 戸	2 戸	5 戸

実績：平成 22 年度農政課調べより

※酪農教育ファームとは、酪農を通じて「心の教育」「命の教育」「食の教育」を支援するという目的で、酪農体験や農業体験の受け入れを行っている牧場のことです。

⑤学校給食における地場産野菜の使用量の増加

学校給食における地場産野菜の導入率については、計画時より 9 ポイント下回っています。

○学校給食における地場産野菜の導入率

	計画時	実績	目標
導入率	62%	53%	70%以上

実績：平成 22 年度学校給食共同調理場調べより

⑥家庭での地場農産物の利用促進

地元の農畜産物が地元で容易に購入できることの満足度については、次期の総合計画策定に伴い市民意向調査が終了したことから、平成 22 年度実績数値はありませんが、一般市民を対象としたアンケートにおいて、「十勝産の食材をよく使う」と回答した割合は 62.8%となっています。

○地元の農畜産物が地元で容易に購入できることの満足度

	計画時	実績	目標
市民	59.3%	63.4%	75%以上

実績：平成 21 年度市民意向調査より

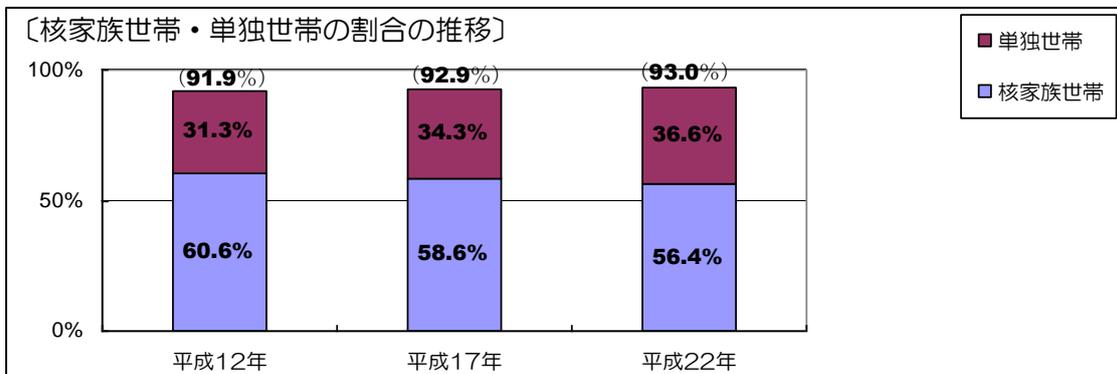
3. 帯広市の食育の現状と取り組みの方向性について

(1) 帯広市の食育の現状

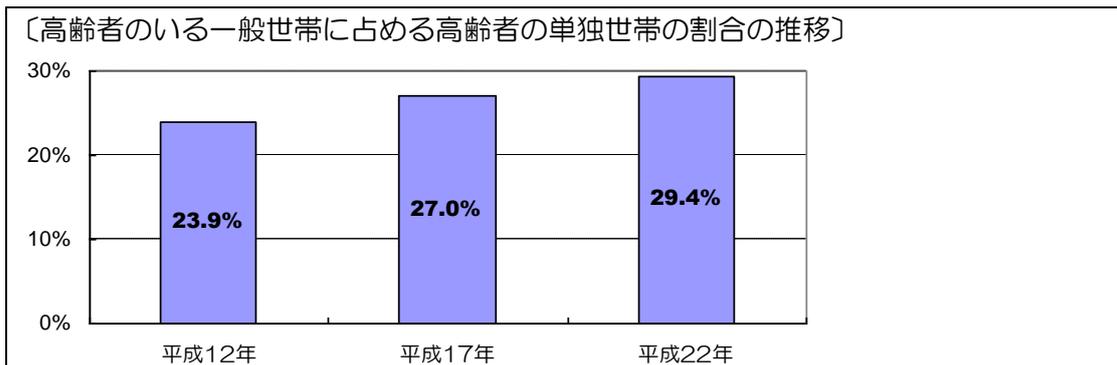
●核家族世帯、単独世帯、高齢者単独世帯の状況

本市における核家族世帯と単独世帯を合わせた割合は、全体の93.0%を占め、平成17年に比べ0.1ポイント上昇しており、依然高い水準となっています。

高齢者のいる一般世帯に占める高齢者の単独世帯の割合についても、29.4%と平成17年に比べ2.4ポイント上昇しており、年々増加する傾向となっています。



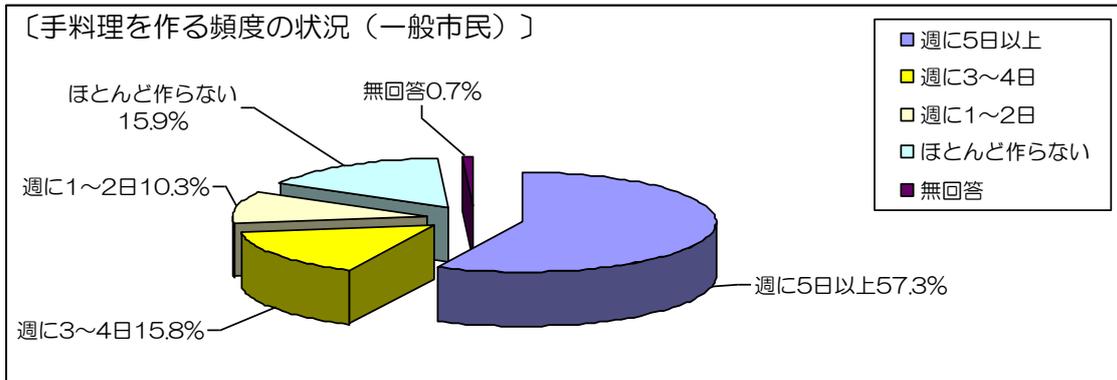
※国勢調査より



※国勢調査より

●手料理を作る頻度の状況

手料理を作る頻度について、「週に5日以上」と回答した市民の割合は6割弱にとどまり、6人に1人は、手料理を「ほとんど作らない」という状況になっています。

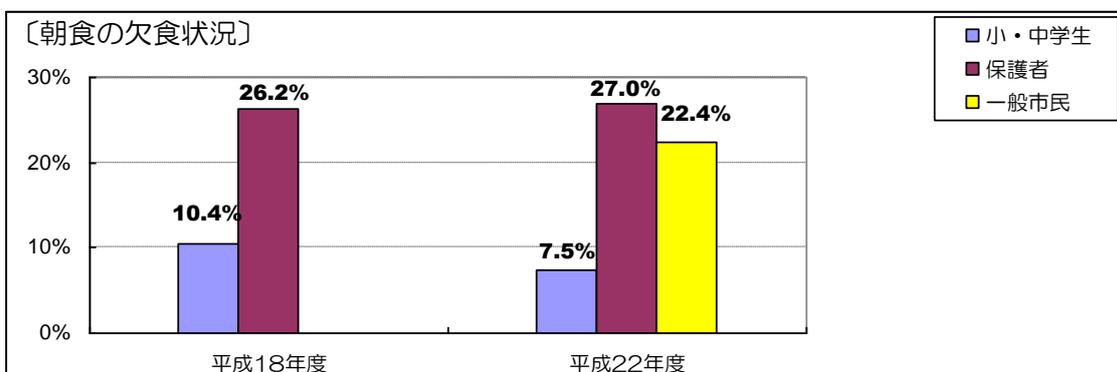


※ 食育に関するアンケート（平成22年度）より

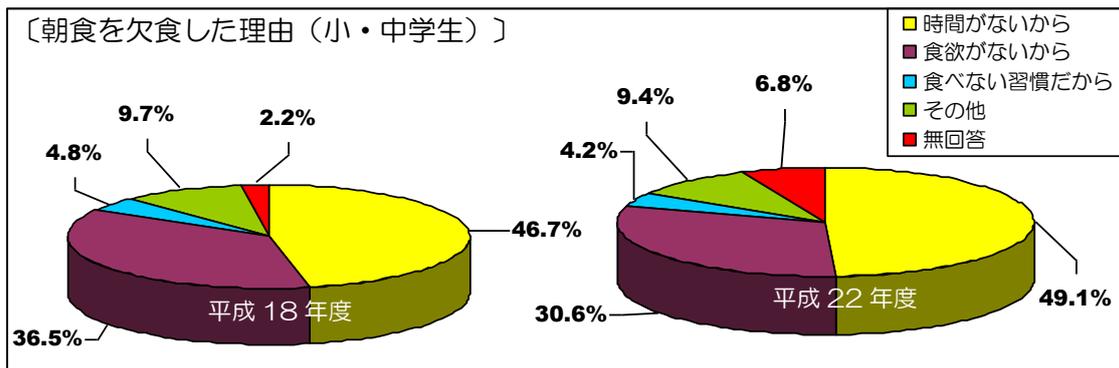
●朝食欠食の状況

朝食を欠食していると回答した児童生徒の割合は、平成18年度と比べ2.9ポイント改善したものの、保護者、一般市民では、2割以上が朝食を欠食している状況となっています。

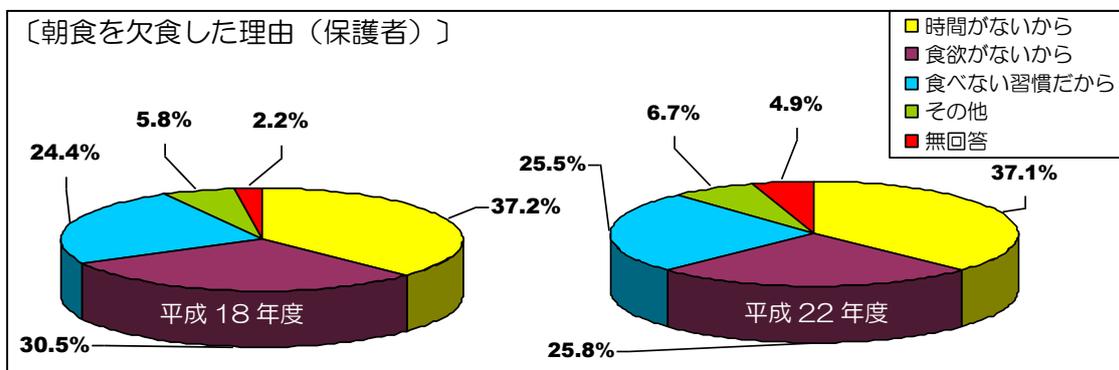
また、朝食を欠食した理由については、各階層で「時間がないから」との回答が最も多く、小・中学生では約5割を占めています。また、一般市民においては、「食べない習慣だから」と回答した人が3割を超えています。



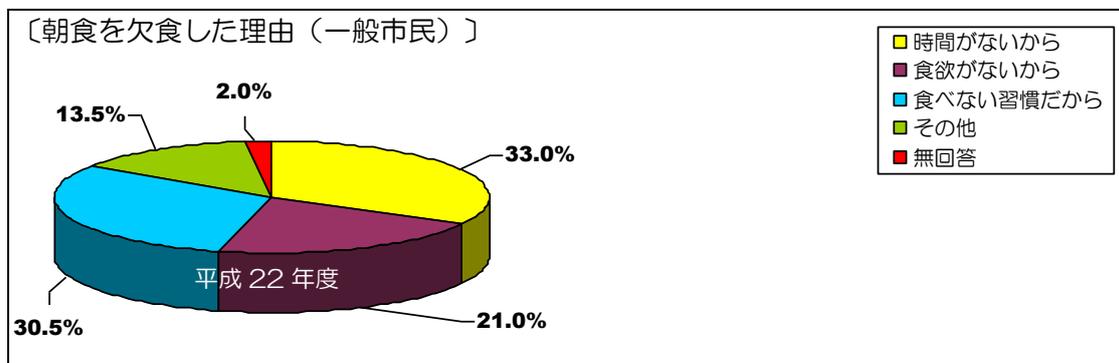
※食育に関するアンケートより ※一般市民に対するアンケートは平成22年度のみ



※食育に関するアンケートより



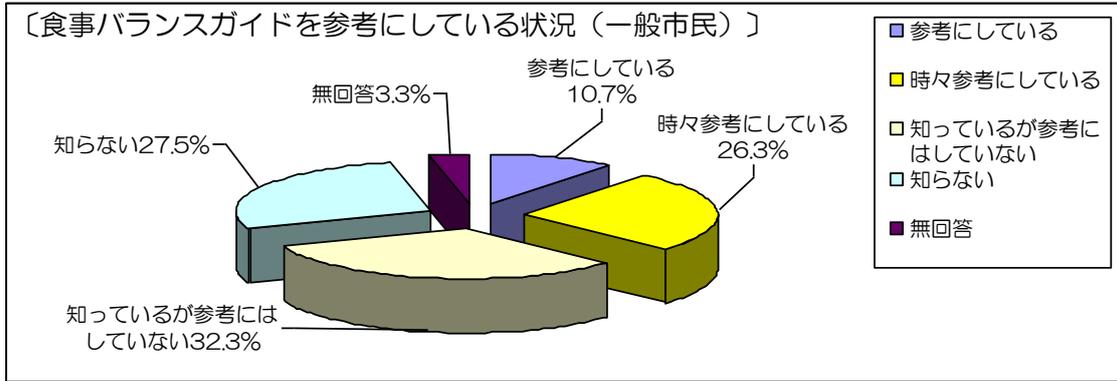
※食育に関するアンケートより



※食育に関するアンケートより ※一般市民に対するアンケートは平成 22 年度のみ

●食事バランスガイドを参考にしている状況

食事バランスガイドを参考にしている状況について、「参考にしている」と回答した市民の割合は、1割にとどまっている一方、「知らない」「知っているが参考にはしていない」市民の割合は、6割にも達しています。



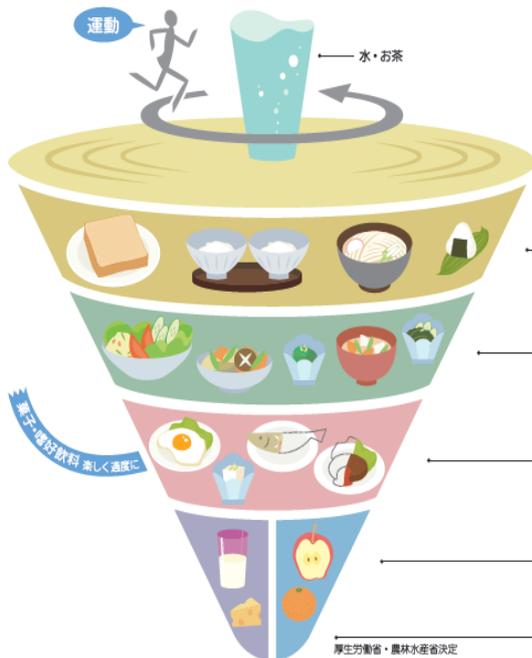
※食育に関するアンケート（平成22年度）より

◆食事バランスガイドとは

コマのイラストにより、1日分の食事を表現し、これらの食事のバランスが悪いと倒れてしまうことを表現しています。

『 **Point!** 野菜は1日350gとりましょう! 』

出典：農林水産省ホームページより（http://www.maff.go.jp/j/balance_guide/）



食事バランスガイド

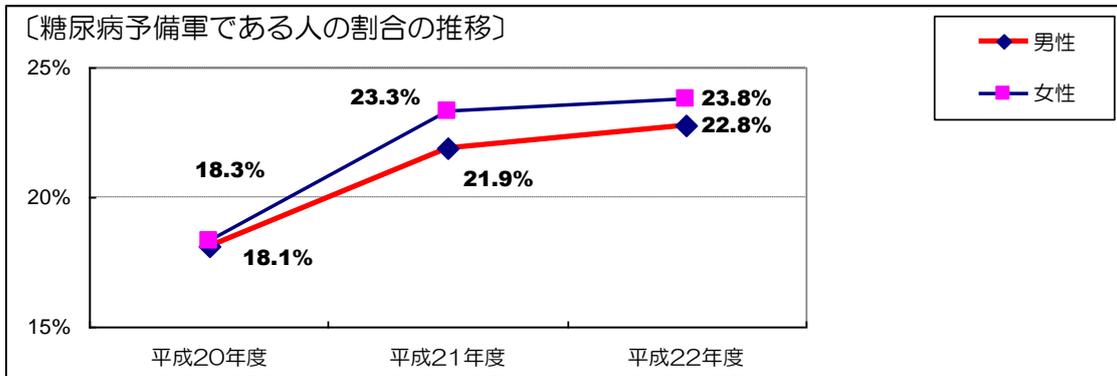
あなたの食事は大丈夫？

1日分	料理例
5~7 主食(ごはん、パン、麺) つ(SV) ごはん(中盛り)だったら4杯程度	1つ分 = ごはんの盛り1杯、おにぎり1個、食パン1枚、ローソク2個 1.5つ分 = ごはん(中盛り)1杯 2つ分 = うどん1束、もりそば1杯、スプレンダー
5~6 副菜(野菜、きのこ、海藻料理) つ(SV) 野菜料理5皿程度	1つ分 = 野菜サラダ、きゅうりとわかめのお酢の和、具だくさん味噌汁、ほうれん草のお浸し、ひじきの煮物、大豆、きのこコンチー 2つ分 = 野菜の煮物、野菜ひめ、芋の煮つけごぼうし
3~5 主菜(肉、魚、卵)・大豆料理 つ(SV) 肉・魚・卵・大豆料理から3皿程度	1つ分 = 冷奴、納豆、目玉焼き1個、焼肉、魚の天ぷら、家でとろろの焼肉 3つ分 = ハンバーグステーキ、煮肉、しょうが焼き、鶏肉のから揚げ
2 牛乳・乳製品 つ(SV) 牛乳だったら1本程度	1つ分 = 牛乳コップ半分、チーズ10g、スライスチーズ1枚、ヨーグルト1パック 2つ分 = 牛乳瓶1本分
2 果物 つ(SV) みかんだったら2個程度	1つ分 = みかん1個、りんご半分、かき1個、梨半分、ぶどう半房、桃1個

※SVとはサービング(食事の提供量の単位)の略

●糖尿病予備軍の状況

糖尿病予備軍（1日の血糖値が平均的に高い人：ヘモグロビンA1cが5.5%以上6.1%未満）である人の割合は、女性、男性ともに年々増加傾向にあり、調査対象者全体の2割を超える人が糖尿病予備軍となっています。



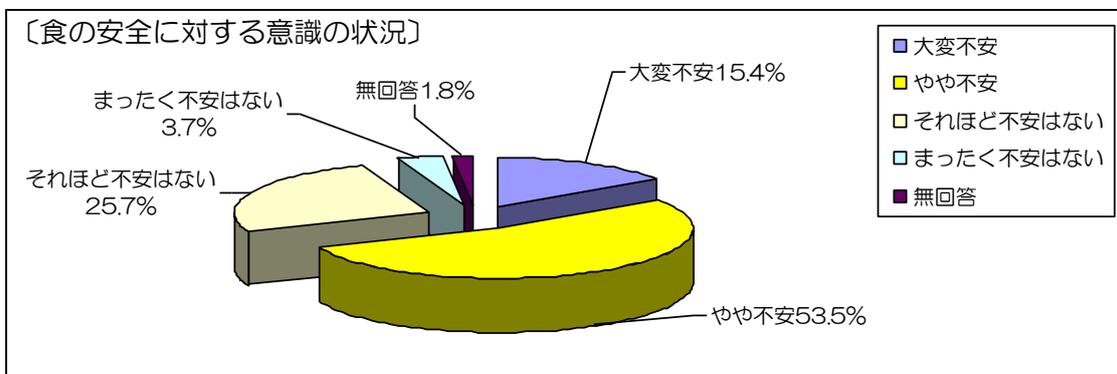
※健康推進課調べより ※調査対象者：帯広市国民健康保険加入者の特定健診受診者

●食の安全に対する意識の状況

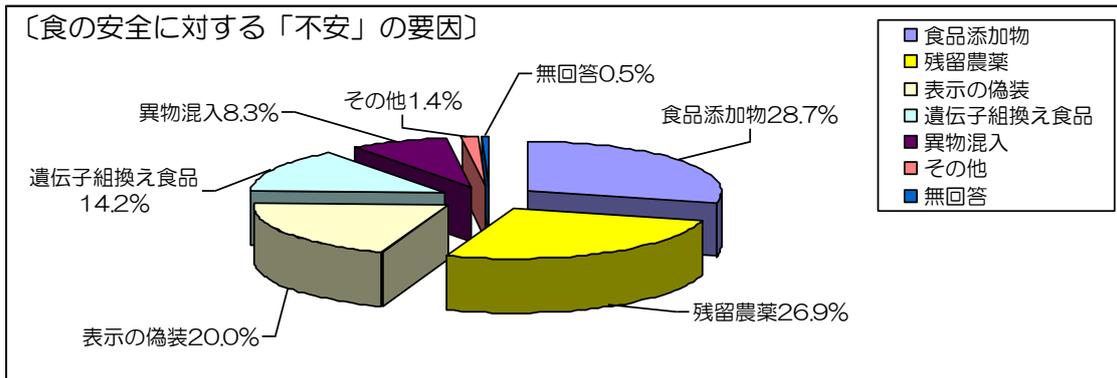
食の安全に対する意識の状況は、「大変不安」と感じている人の割合が、15.4%となっており、「やや不安」と回答した人の割合を含めると約7割の人が不安と感じています。

また、その不安の要因については、「食品添加物」が28.7%と最も多く、次いで「残留農薬」26.9%、「表示の偽装」20.0%となっています。

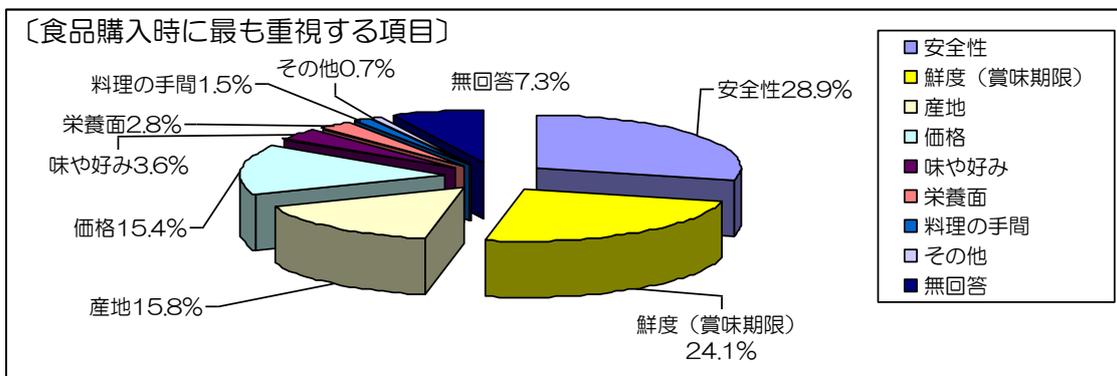
食品を購入する時に最も重視する点についても、「安全性」を重視する人の割合が28.9%を占めたほか、「鮮度（賞味期限）」も24.1%となっています。



※食育に関するアンケート（平成22年度）より



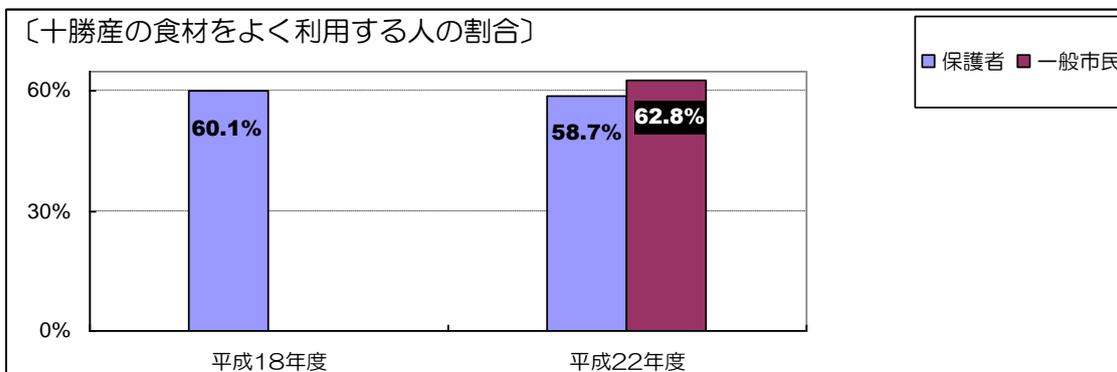
※食育に関するアンケート（平成 22 年度）より



※食育に関するアンケート（平成 22 年度）より

●十勝産食材の利用状況

十勝産の食材をよく利用する人の割合は、保護者で平成 18 年度 60.1%から 1.4 ポイント減少の 58.7%となっている一方、一般市民は、保護者を上回る 62.8%となっています。

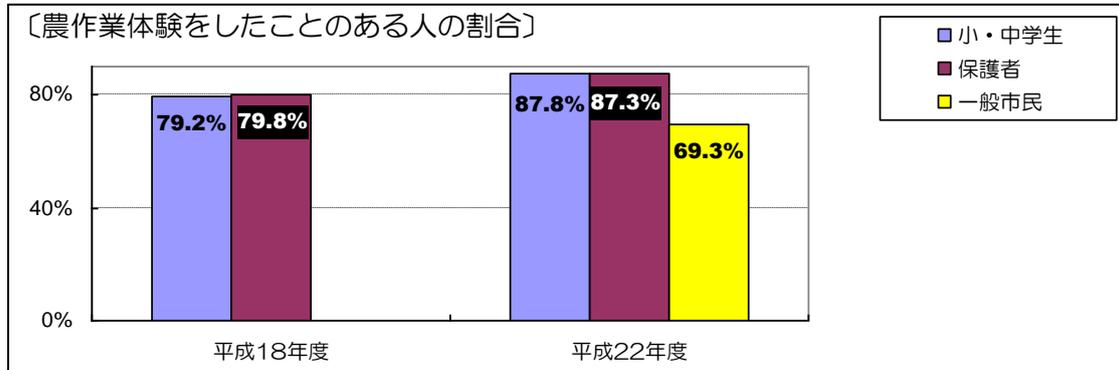


※食育に関するアンケートより

※一般市民に対するアンケートは平成 22 年度のみ

●農作業の体験状況

農作業体験をしたことのある人の割合は、平成18年度より小・中学生では8.6ポイント、保護者では7.5ポイント増加しており、約9割の人が農作業を体験しています。一方、一般市民については、69.3%にとどまっています。



※食育に関するアンケートより

※一般市民に対するアンケートは平成22年度のみ

(2) 第2次計画の取り組みの方向性

本市の食育の推進については、第1次計画の取り組みなどにより、市民の食育に対する関心が徐々に高まってきているなど、一定程度成果が上がっているものの、基本目標の達成状況を表す客観的な指標として設定した目標数値の結果を見ると、食育への関心や理解が実践に十分結びついていない状況がうかがえます。

食育をめぐる現状では、高齢世帯や単独世帯の増加など、社会環境の変化に伴い、食の簡便化・外部化が進展しているほか、朝食欠食などによる食習慣の乱れや栄養バランスの偏りによる生活習慣病の増加などが見られます。

また、飽食時代において食品廃棄などの環境問題が顕在化してきたほか、平成23年3月に発生した東日本大震災にともなう放射能汚染の影響が心配されるなど、食品の安全性を脅かす事件・事故を背景とした食の安全・安心に対する市民の関心が高まっています。一方、地域農業に関する体験や理解が十分にすすんでいない状況もうかがえます。

第2次食育推進計画では、これらの現状と課題などを踏まえ、今後も継続的に食育の推進を図り、「周知」から「実践」へとつなげていきます。

食育をめぐる現状と課題

規則正しい食習慣

- 朝食の欠食
- 栄養バランスの偏り

食の楽しさ・大切さ

- 環境への理解促進
- 安全・安心への関心の高まり

「農」とのふれあい

- 生産現場への理解促進
- 地元産食材の利用促進

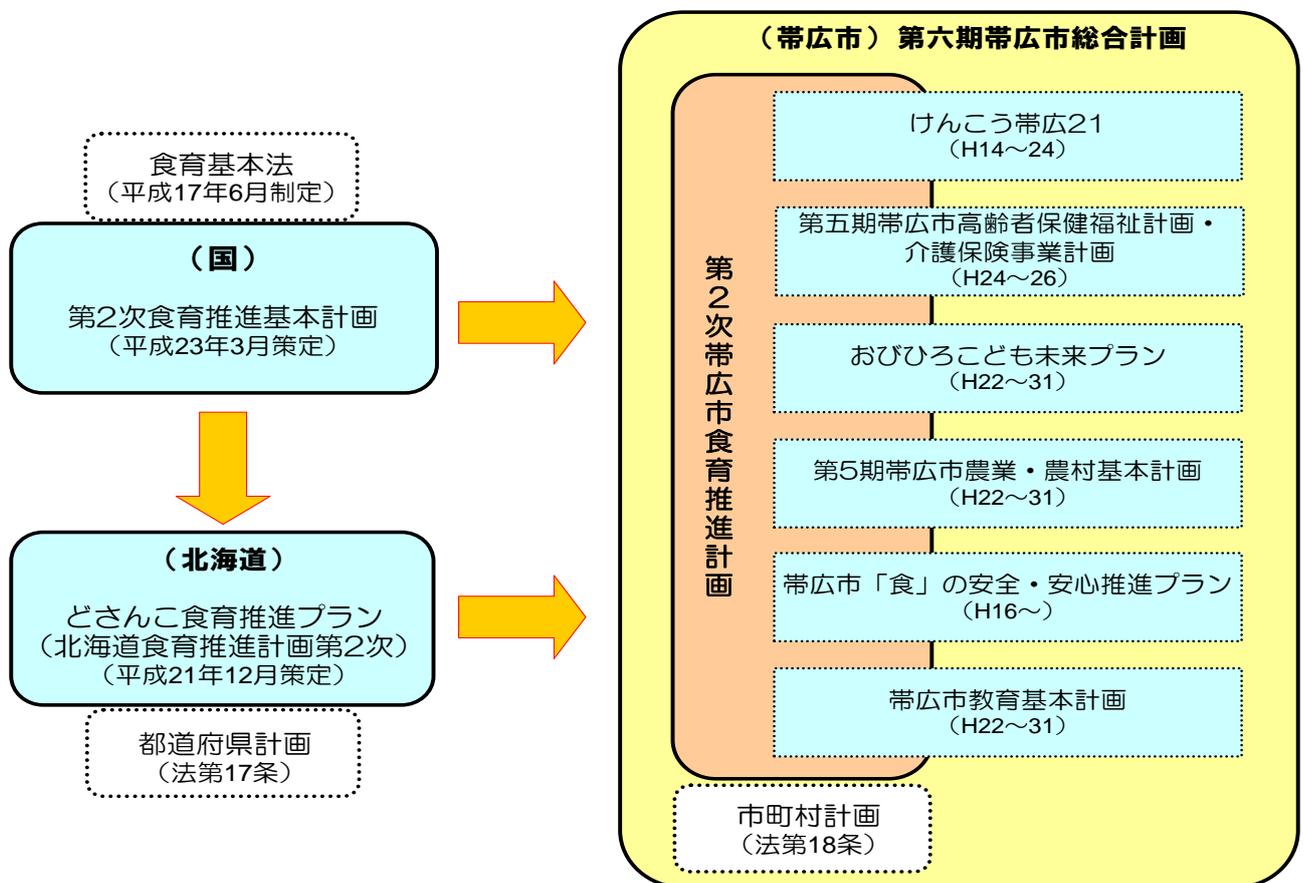
「周知」から「実践」へ
一人ひとりが食育の大切さを理解して、
日常生活の中で自ら実践することが重要

第2章 計画の基本的な考え方について

1. 計画の位置付け

第2次帯広市食育推進計画は、食育基本法第18条第1項に基づく市町村食育推進計画として位置付け、本市の食育を総合的、具体的に推進するために策定するものです。

また、国の「第2次食育推進基本計画」や北海道の「北海道食育推進計画（第2次）」を踏まえたうえで、「第六期帯広市総合計画」や、「けんこう帯広21」などの各分野計画などとも整合性を図るとともに、連携しながら食育の取り組みを推進します。



2. 計画期間

計画の期間は、平成 24 年度から平成 28 年度までの 5 年間とします。

なお、社会経済情勢の変化などによって計画の変更が必要となった場合には、適宜見直すこととします。

3. 基本理念

『すべての市民が生涯にわたって「食」に関心を持ち、
健全な「身体」と豊かな「心」を育み、
食の魅力があふれる元気な「地域」を目指します』

「食」は生きていくうえでの基本であり、私たちが健康で豊かに生活するためには欠かせないものです。

帯広市には、広々とした田園空間の中で展開される大規模農業により生産された、私たちの「食」を支える、新鮮で美味しい農畜産物が豊富にあります。

食育推進にあたっては、これら本市が有している「食」の恵みを通じて、すべての市民が生涯にわたって「食」に関心を持ち、健全な「身体」と豊かな「心」を育むとともに、「食」と「農林漁業」を柱とする「フードバレーとかち」の旗印のもとに、食の魅力があふれる元気な「地域」づくりを目指します。

4. 基本方針と基本施策

基本理念の実現に向けて、3つの基本方針と10の基本施策を柱として、食育を推進していきます。

基本理念

すべての市民が生涯にわたって「食」に関心を持ち、健全な「身体」と豊かな「心」を育み、食の魅力があふれる元気な「地域」を目指します

基本方針

1. 食を通じて健全な「身体」を育む

2. 食を通じて豊かな「心」を育む

3. 食を通じて元気な「地域」を育む

基本施策

1. 規則正しい食習慣を身につける

2. 栄養バランスの取れた食事を実践する

3. 楽しく食べる習慣を身につける

4. 伝統的な食文化への理解を深める

5. 食への感謝の心を育む

6. 食の安全・安心に対する理解を深める

7. 食を通して環境への理解を深める

8. 地元の食材を使った豊かな食生活を実践する

9. 地域の農業や食産業に対する理解を深める

10. 食を通じたふれあいや交流を深める

5. 食育推進にあたっての数値目標

基本理念の実現に向けた基本施策の成果や達成度を客観的な指標により把握するため、主要な項目について数値目標を設定します。

指 標		現状値	目標値 (H28)
朝食を欠食する市民の割合の減少	小学6年生	2.9% ※1	0%
	中学3年生	3.2% ※1	
	市民	14.0% ※1	10%以下
野菜を1日3回食べる市民の割合の増加	小学6年生	27.2% ※1	45%以上
	中学3年生	26.4% ※1	
	市民	29.9% ※1	
牛乳・乳製品を週5日以上とる市民の割合の増加	小学6年生	69.0% ※1	95%以上
	中学3年生	65.4% ※1	55%以上
	市民	46.5% ※1	
食事を家族などと一緒に食べる児童・生徒の割合の増加	小学6年生	98.4% ※1	100%
	中学3年生	97.0% ※1	
食育に関心を持っている市民の割合の増加		76.1% ※1	90%以上
農業(畑作・酪農)体験をしたことのある市民の割合の増加	小学6年生	89.0% ※1	90%以上
	中学3年生	86.4% ※1	75%以上
	市民	69.3% ※1	
地元の農畜産物をよく使う市民の割合の増加		62.8% ※1	70%以上
学校給食における地場産野菜の導入率の増加		53.0% ※2	68.9%以上
食育推進サポーター登録数 ※3		—	30団体・人

※1：食育に関するアンケート（平成22年度）より

※2：平成22年度学校給食共同調理場調べより

※3：食に関する様々な専門技術や知識を持つ方々を「食育推進サポーター」として登録し
学校や地域などでの食育推進を支援します

第3章 施策の展開について

計画の推進にあたっては、基本方針・施策の相互の関連性に配慮しながら、総合的な観点から取り組みます。

なお、施策を展開するにあたっては、食育を働きかける主な「対象」と取り組みが展開される「場面」を踏まえて取り組みをすすめていきます。

1. 食を通じて健全な「身体」を育む

食は生きていくうえで必要不可欠なものであり、健康の維持、成長発育の増進など、身体を育むための重要な役割を果たしています。なかでも、子どもの時に、いかに規則正しく、栄養バランスの取れた食事を実践するかが、大人になってからの食習慣や健康の維持にもかかわってきます。

子どもから大人まで、市民一人ひとりが食を通じて健全な「身体」を育むことを目指します。

1. 規則正しい食習慣を身につける

1日3食決まった時間に食事をとることは、毎日を元気に暮らす基本であり、特に朝食は、1日の活力の源になることから、きちんととることが大切です。

家庭において規則正しい食生活を実践できるよう、朝食をきちんととることや規則的な食生活リズムの大切さなど、基本的な食習慣に関する正しい知識の普及啓発をすすめます。

2. 栄養バランスの取れた食事を実践する

健全な食生活を送るためには、子どもの時から、健康な身体づくりに必要な栄養バランスがとれた食習慣を身につけることが必要です。

自分や家族のために栄養の知識を理解し自らが実践できるよう、栄養バランスの取れた献立の普及や栄養相談・指導などの支援をすすめます。

(主な取り組み内容)

○子ども：0～14歳 ○青年・壮年・中年：15～64歳 ○高齢者：65歳以上

区分	取り組み内容	対象	展開の場面
栄養相談・家庭訪問の実施	乳幼児の親を対象に、栄養相談を随時行います。希望により家庭訪問を実施します。【子育て支援課】	子ども 保護者	家庭
離乳食教室の実施	生後3か月児と親を対象に、離乳食の開始・すすめ方についての講話を実施します。【子育て支援課】	子ども 保護者	家庭
乳幼児健診時の栄養相談の実施	乳幼児の親を対象に、乳幼児健診時に栄養相談を実施します。【子育て支援課】	子ども 保護者	家庭
ミニ講座・栄養相談の実施	乳幼児の親を対象に、地域子育て支援センターで、ミニ講座や栄養相談を実施します。【子育て支援課】	子ども 保護者	家庭
親子料理教室の実施	子育て世帯を対象に、栄養バランスや食への感謝の気持ちなど、食の大切さを伝えるため、親子料理教室を実施します。【こども課・子育て支援課】	子ども 保護者	家庭

区分	取り組み内容	対象	展開の場面
給食試食会の実施	保育所入所児童の保護者を対象に、乳幼児期の食生活について関心を深めるため、給食の試食会を実施します。 【こども課】	子ども 保護者	保育所
給食だよりの発行	保育所入所児童と児童生徒及びその保護者を対象に、献立表のほか食品や栄養素、望ましい食習慣の提示等掲載された給食だよりを発行します。 【こども課・学校給食共同調理場】	子ども 保護者	保育所 学校
学校における食育の推進	食育指導専門員の配置など、指導体制の充実を図りながら学校における食育を推進します。 【学校教育指導室・学校給食共同調理場】	子ども 保護者	学校
給食時間を活用した食育の推進	栄養士・調理員や生産者が学校を訪問し、児童生徒との交流を通して食育を推進します。【学校給食共同調理場】	子ども 保護者	学校
バイキング給食の実施	児童生徒が楽しみながら自らの健康を考え、献立を適切に選択する力と正しい食習慣を養うため、バイキング給食を実施します。 【学校給食共同調理場】	子ども 保護者	学校
食育リーフレットの作成	市内全小中学生、保護者、教職員を対象に、食育を推進するため、食育リーフレットを作成し配布します。 【学校教育指導室】	子ども 保護者	学校
食育講演会の開催	食に関する指導を推進する教員等を対象に、指導力向上の取り組みとして、食育講演会を開催します。 【学校教育指導室】	子ども 保護者	学校
食関連図書の情報提供	市内全小学生を対象に、食に関する図書等を紹介する食☆ナビキッズを作成し配布します。 【図書館】	子ども 保護者	学校
妊婦教室の実施	妊婦と夫を対象に、妊娠中の食生活について必要な情報を提供します。 【子育て支援課】	青年 壮年 中年	家庭

区分	取り組み内容	対 象	展開の場面
市民試食会の実施	学校給食への理解と家庭における食育を促進するため、調理場の見学会及び給食の試食会を実施します。 【学校給食共同調理場】	青年 壮年 中年 高齢者	地域
健康相談の実施（特定健診の保健指導）	生活習慣病予防やこころの健康づくりに関する相談を実施します。 【健康推進課】	青年 壮年 中年 高齢者	地域
健康づくり講座の実施	生活習慣病予防やこころの健康づくりに関して、自らの健康づくりに必要な知識や技術の普及啓発を図るため講座を実施します。 【健康推進課】	青年 壮年 中年 高齢者	地域
栄養相談の実施	生活習慣病予防につとめてもらうよう、食生活・日常生活についての相談を実施します。 【健康推進課】	青年 壮年 中年 高齢者	地域
料理教室の実施	生活習慣病予防の実践を図るため、減塩・栄養バランス食の料理教室を実施します。 【健康推進課】	青年 壮年 中年 高齢者	地域
食の自立支援（配食サービス）事業の実施	介護予防や生活支援を要する高齢者に対し、健康で自立した在宅生活の支援を図るため、配食サービスを実施します。 【高齢者福祉課】	高齢者	地域
栄養改善講座の実施	ひろびろ元気教室の参加者を対象に、食生活や栄養面からの介護予防をテーマとする講座を実施します。 【高齢者福祉課】	高齢者	地域

区分	取り組み内容	対象	展開の場面
食生活改善推進員の活動の推進	食生活改善推進員による、青年を対象とした食育料理実習や幼児親子を対象とした食育教室などを実施します。 【健康推進課】	全体	地域
健康づくりをテーマとした講座の実施	各種講座において、健康づくりをテーマとした講座を実施します。 【生涯学習課】	全体	地域
食関連図書の情報提供	食に関する図書等を紹介する食☆ナビを作成し配布するほか、紹介本や関連本を館内に展示する食文化コーナーを設置します。 【図書館】	全体	地域
ホームページによる情報発信	帯広市ホームページをはじめ、農政課や図書館が管理するホームページにより、食育に関する情報を提供します。 【各課・図書館・農政課】	全体	地域
イベント等を通じた啓発	健康まつり、食育フェスティバルなど、様々なイベントを通して、食育に関する啓発を実施します。 【各課・関係団体】	全体	地域

※食生活改善推進員：食を通じた健康づくりを積極的に推進する地域ボランティア

取 り 組 み 事 例

食生活改善推進員の活動



食生活改善推進員は、食を通じた健康づくりを積極的に推進する地域ボランティアで、市民の食生活改善のための活動を行っています。本市が開催する「食生活改善推進員養成講座」を受講し、所定の課程を修了した方がなることができます。

写真は、料理教室の講師として活動している様子。

取り組み事例

バイキング給食の実施



小学6年生を対象に、栄養バランスを考え、献立を適切に選択する力と正しい食習慣を養うため、バイキング給食を実施します。自分で食べた食品について、カロリー計算も行います。

取り組み事例

給食だよりの発行

■今月のもくひょう
健康と栄養について
知ろう(又たな身体)

給食だよりの12月

平成23年12月(小学校)
帯広市学校給食共同調理場
帯広市西22条北2丁目23番地 TEL37-5800

ビタミンC

ビタミンCは体の抵抗力を高めるので、かぜ予防に役立ちます。また、コラーゲンの生成を助け皮膚を健康に保つ働きがあり、体の調子を整えてくれます。特にかぜをひきやすいこの季節に、たくさん摂取したい栄養素です。

ビタミンCが多く含まれている食品

物	キウイフルーツ	いちご	グレープフルーツ	レモン	みかん
フロコラー	キャベツ	大根	赤・黄ピーマン	じゃがいも	さつまいも

注意!!
ビタミンCはとてもデリケート

- 水に溶けやすいので、水に浸しっぱなしにしない。
- 熱に弱いので、茹ですぎない。
- 空気に弱いので、放置はしない。

例えば…大根をおろしてから20分ほどそのままだしておくと、20%のビタミンCが失われる。

たくさんビタミンCも摂取するには

- ★生で食べられる果物を意識して食べる。
- ★加熱して、かさを減らしてたくさん食べる。
- ★果物や野菜の皮をむいたら、なるべく早く食べる。
- ★いも類のビタミンCは熱に強いので、いも類を効率よく食べるようにする。

※給食費は食材購入の大切な財源です。忘れず納入しましょう。

強カパワーのノロウイルスに注意

冬場には多い食中毒はノロウイルスです。人から人へ感染したり、ノロウイルスに汚染された食品や水の白濁等、発症します。感染力が非常に強いので、発症しないよう注意していただく必要があります。予防のためには、トイレの後や調理する前などに石けんでしっかりと手洗いをすること、感染源を避けることが大切です。

月	火	水	木	金
1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25
26	27	28	29	30
31				

※給食費は食材購入の大切な財源です。忘れず納入しましょう。

毎月の献立表のほか食材の説明、食品や栄養素、望ましい食習慣の提示などを掲載する給食だよりを発行します。

取 り 組 み 事 例

親子料理教室の実施



子育て世帯を対象に、栄養バランスや食への感謝の気持ち、家族で食卓を囲む楽しさなど食育の大切さを伝えるため、親子料理教室を実施します。

取 り 組 み 事 例

給食時間での食育の推進



給食や授業時間において、栄養士・調理員や生産者が学校訪問し、児童生徒との交流を通して食育を推進します。

2. 食を通じて豊かな「心」を育む

食べることは、健康な身体を維持するだけでなく、心の形成にも大きな役割を果たすと言われていています。なかでも、食の楽しさや感謝を実感しながら食べることは、日々の食生活の質を向上させてくれるとともに、自身の健康にも良い影響をもたらします。また、食の安全性や環境とのかかわりについても、その実態を把握し、正しく理解することが大切です。

市民一人ひとりが食べることへの意識を高く持ち、豊かな「心」を育むことを目指します。

3. 楽しく食べる習慣を身につける

豊かな心を育むためには、家族団らんの食卓や仲間との食事など食事を通じたコミュニケーションの場を設けることが重要であり、食の楽しさを実感することや心の安定にもつながります。

家族や仲間と楽しく食べる習慣が定着するよう、食事を作る楽しみ、一緒に食べる楽しみなどを伝える取り組みをすすめます。

4. 伝統的な食文化への理解を深める

地域の歴史と風土に培われ、四季折々に生産される地域の食材の豊かさを実感するためには、地域の特色ある食文化や日本の伝統的な食文化を理解し、継承していくことが大切です。

地域で培われた食文化や日本の食にかかわる歴史を理解し、関心を深めるため、保育所・学校等において、地域独自の昔から伝わる料理や、季節・行事にちなんだ料理を提供するなどの取り組みをすすめます。

5. 食への感謝の心を育む

世界的に食料が不足している状況にあるなか、食料の大部分を海外からの輸入に依存している我が国では、食の重要性がますます高まってきています。

私たちの日々の食生活が、自然の恩恵、動植物の命、生産者をはじめとする多くの人々の苦勞などに支えられていることを理解し、食に携わる人々や食への感謝の心を育むための取り組みをすすめます。

6. 食の安全・安心に対する理解を深める

食の安全・安心を確保するには、生産者が食の安全に万全を期すだけでなく、消費者自身も食の安全に関する知識と理解を深め、自らの判断で正しく選択する力を身につけることが大切です。

食の安全・安心に対する知識や理解を深めるために、食に関する幅広い情報の提供や安全・安心な農畜産物の生産に向けた生産者の取り組みなどについて情報発信をすすめます。

7. 食を通して環境への理解を深める

食の生産は自然の恩恵のうえに成り立っており、安全・安心な農畜産物の生産や持続的な農業を展開するためには、食品廃棄物の削減、化学肥料・化学合成農薬の使用削減、温室効果ガスの排出抑制などにより、環境負荷の軽減を図ることが大切です。

「もったいない」意識の浸透など、身近なことから実践できる食品廃棄物の削減をはじめ、食料の輸送に伴うエネルギー削減を目指す「フードマイレージ」の取り組み、環境との調和に配慮したクリーン農業や有機農業への理解の促進など、食を通じた環境負荷の軽減に対する意識の普及啓発をすすめます。

(主な取り組み内容)

○子ども：0～14歳 ○青年・壮年・中年：15～64歳 ○高齢者：65歳以上

区分	取り組み内容	対象	展開の場面
行事食の実施	保育所入所児童を対象に、こどもの日、ひな祭り等の伝統行事にちなんだ給食を実施します。 【こども課】	子ども 保護者	保育所
農作業・調理体験の実施	保育所入所児童を対象に、自ら育てた野菜を使用する調理体験を実施します。 【こども課】	子ども 保護者	保育所
こどもクッキングの実施	保育所入所児童を対象に、食の大切さなどを伝えるため、児童自ら調理をすることもクッキングを実施します。 【こども課】	子ども 保護者	保育所
食育講座の実施	保育所入所児童の保護者を対象に、乳幼児期の食の大切さについて、様々なテーマの講話を実施します。【こども課】	子ども 保護者	保育所
親子料理教室の実施（再掲）	子育て世帯を対象に、栄養バランスや食への感謝の気持ちなど、食の大切さを伝えるため、親子料理教室を実施します。 【こども課・子育て支援課】	子ども 保護者	家庭
パパと子の料理教室の実施	父と子を対象に、家族で食卓を囲む大切さなど、食の大切さを伝えるため、料理教室を実施します。【子育て支援課】	子ども 保護者	家庭
学校給食週間の実施	児童生徒を対象に、学校給食の意義や役割を学ぶため、地域の食材と姉妹都市の特産品を使用した特別献立による給食を実施します。 【学校給食共同調理場】	子ども 保護者	学校
料理体験教室の実施	学童農園などで収穫した野菜を使った料理体験教室を実施します。 【学校給食共同調理場】	子ども 保護者	学校
農業体験学校の開校	小学生の親子を対象に、農作物の作付けや収穫の農作業体験などを実施する農業体験学校を開校します。 【農政課】	子ども 保護者	地域

区分	取り組み内容	対象	展開の場面
食育体験学習の実施	児童会館で宿泊研修を受ける小学生を対象に、食育体験学習を実施します。 【子育て支援課・農政課・児童会館】	子ども 保護者	地域
食関連図書の情報提供（再掲）	市内全小学生を対象に、食に関する図書等を紹介する食☆ナビキッズを作成し配布します。 【図書館】	子ども 保護者	学校
学校における食育の推進（再掲）	食育指導専門員の配置など、指導体制の充実を図りながら学校における食育を推進します。 【学校教育指導室・学校給食共同調理場】	子ども 保護者	学校
バスツアーの実施	生産現場での安全安心な取り組み活動や状況などについて理解を深めるため、バスツアーを実施します。【農政課】	全体	地域
クリーン農業への理解の促進	YES! Clean、エコファーマー、特別栽培等のクリーン農業の取り組みについての理解を促進します。 【農政課】	全体	地域
食関連図書の情報提供（再掲）	食に関する図書等を紹介する食☆ナビを作成し配布するほか、紹介本や関連本を館内に展示する食文化コーナーを設置します。 【図書館】	全体	地域
食関連映画上映会の開催	食に関する映画の上映会を開催します。 【図書館】	全体	地域
ホームページによる情報発信（再掲）	帯広市ホームページをはじめ、農政課や図書館が管理するホームページにより、食育に関する情報を提供します。 【各課・図書館・農政課】	全体	地域
イベント等を通じた啓発（再掲）	健康まつり、食育フェスティバルなど、様々なイベントを通して、食育に関する啓発を実施します。 【各課・関係団体】	全体	地域

取り組み事例

パパと子の料理教室の実施



父と子を対象に、父子料理教室を実施し、食への感謝の気持ちや家族で食卓を囲む大切さの理解と関心を深めます。

取り組み事例

帯広っ子農業体験学校の開校



小学4年生以上の親子を対象に、地元農業への理解や命の大切さ、感謝の心を学ぶため、農作物の作付けや収穫などの農作業体験や酪農体験などを実施する農業体験学校を開校します。

写真は、搾乳体験と長いもの収穫の様子。

取り組み事例

安全・安心バスツアーの実施



生産現場での安全安心な取り組み活動や状況などについて理解を深めるため、バスツアーを実施します。

取り組み事例

食☆ナビの発行と本の展示

SHOKU☆NAVI 2011.12 vol.62

食☆ナビ

カラフル レシピ

<p>自分で作れるグミの本!</p> <p>秋田 尚子/著 文化出版局(596.85 円)</p> <p>ジュースや缶詰など身近にある材料でOK! 型が無くても作れます。</p>	<p>最高にかわいなお菓子マカロン</p> <p>ステファン グュノ/著 PHP研究所(596.85 円)</p> <p>買うとちょっと高いかなと思うマカロン。手作りで贈ると喜ばれるかも。</p>	<p>グリーンスムージーをはじめよう</p> <p>仲室 陽子/著、山口 麻子/著 文芸春秋(596.85 円)</p> <p>お好みの緑色野菜と果物を組み合わせたスムージーで毎日元気に!</p>
<p>Pink!</p> <p>石橋 かおり/著 アスペクト(596.85 円)</p> <p>見ているだけで幸せになるキュートなピンク色ばかりのケーキレシピ。</p>	<p>生マシュマロ・ギモーブの本</p> <p>小田川 さなえ/著 グラフ社(596.85 円)</p> <p>フランボワーズ、栗平、抹茶、マンゴーなどのビューレやパウダーを使えばカラフルに。</p>	<p>色彩フードセラピー</p> <p>大守 光子/著 原色コミュニケーションズ(141.21 円)</p> <p>色は心理に影響を与えます。食卓にも5色の食材を使って色彩を取り入れてみては?</p>
<p>黒野菜</p> <p>鎌野 綾子/著 マープルトロン 中央公論新社(発売)(596.37 円)</p> <p>他に「白野菜」「赤野菜」「緑野菜」のシリーズもあります。</p>	<p>まるごと柑橘レシピ</p> <p>藤 智世/著 家の光協会(596.3 円)</p> <p>元気カラーの柑橘類は調味料、料理、お菓子にと大活躍。病気予防・美容にいいことずくめのものです。</p>	<p>エディブルフラワー</p> <p>久木 綾子/著 日東書院本社(596.3 円)</p> <p>いつもの料理に食用のカラフルなお花を添えて美しく色鮮やかに。</p>
<p>トマト出っでござい! 赤の魔法レシピ57</p> <p>浜内 千波/著 鹿巴出版(596.37 円)</p> <p>栄養、美味しさがギュッとつまったトマト出でっでござい! コピーンパワーを取り入れましょう。</p>	<p>和のテーブルセッティング</p> <p>浜 裕子/著 誠文堂新光社(596.8 円)</p> <p>日本人の季節やモノに対する色の美意識をもっと暮らしの中に。</p>	
<p>「5色の野菜」カラダ革命</p> <p>中沢 るみ/著 静山社(498.58 円)</p> <p>「色」がもつ効能を知って、免疫力をアップ!</p>		

帯広市図書館 帯広市西2条西 14丁目3番地
TEL 0155-22-4700 URL <http://www.lib-nobhirup>



毎月、様々なテーマの食の本を紹介する「食☆ナビ」を作成します。「食☆ナビ」に掲載した本や関連本は食文化コーナーで展示をします。

3. 食を通じて元気な「地域」を育む

食を通じた地域の活性化は、我が国の食料供給基地としての役割を担う本市の特色をいかした食育の取り組みです。なかでも、地元の豊富な食材を地元で消費する「地産地消」の推進は、地域の主要な産業である農業や食産業への理解を深めるとともに、生産者と消費者の交流を通じて、作り手の想いを直に感じることにもつながります。

地産地消の取り組みをはじめ、地域の農業や食にかかわる産業への理解、ふれあいや食を通じた交流を深めることにより、元気な「地域」づくりを目指します。

8. 地元の食材を使った豊かな食生活を実践する

地元の食材の良さを知り、地元で旬の食材を食べることは、心身の健康や豊かな食生活を実践するために大切なことです。

地元食材を使用した食生活を促進するために、地元産の農畜産物を家庭の食卓や給食に積極的に導入するなど、地産地消の取り組みをすすめます。

9. 地域の農業や食産業に対する理解を深める

食を生み出す場としての農業や食品の製造・加工などの現場を知ることが、食への関心を高め地域の主要な産業をより身近なものとして理解するために重要です。

地域の農業や食産業に対する関心と理解を深めるために、生産者と連携した農業体験の機会や農業に関する情報の提供、地域の食産業の現場を訪問する取り組みなどをすすめます。

10. 食を通じたふれあいや交流を深める

地域の特色である豊かな食を通して、生産者と消費者など多様な人と人とのつながりや交流を深め、活力ある地域づくりへとつなげていくことが大切です。

食を通じたふれあいや交流を促進するため、地域における食育を推進するサポーターの育成や、地元農畜産物を直売する朝市・夕市の開催及びそれらに関する情報発信をすすめます。

(主な取り組み内容)

○子ども：0～14歳 ○青年・壮年・中年：15～64歳 ○高齢者：65歳以上

区分	取り組み内容	対象	展開の場面
農作業・調理体験の実施（再掲）	保育所入所児童を対象に、自ら育てた野菜を使用する調理体験を実施します。【こども課】	子ども 保護者	保育所
ふるさと給食の実施	保育所入所児童や児童生徒を対象に、地元産食材を活用した特別献立による給食を実施します。【こども課・学校給食共同調理場】	子ども 保護者	保育所 学校
農業体験学習の実施	農業技術センターの食育展示ほ場を活用して、農業や農作物の説明、収穫体験学習を実施します。【農政課】	子ども 保護者	地域
農業体験学校の開校（再掲）	小学生の親子を対象に、農作物の作付けや収穫の農作業体験などを実施する農業体験学校を開校します。【農政課】	子ども 保護者	地域
教育ファームの充実	酪農体験や農作業体験などを行う教育ファームの取り組みを促進します。【農政課】	子ども 保護者	地域

区分	取り組み内容	対 象	展開の場面
親子料理教室 の実施	小学生の親子を対象に、農業や地元産食材への理解と関心を深めるため、料理教室を実施します。 【農政課】	子ども 保護者	家庭
給食への地元 産野菜の導入 促進	生産者や農協などとの連携により、地元産農畜産物の学校給食共同調理場での活用をさらにすすめます。 【学校給食共同調理場】	子ども 保護者	学校
学校給食の新 メニューづく り	地元産食材を活用した新たな学校給食の献立を工夫します。 【学校給食共同調理場】	子ども 保護者	学校
新たな加工品 の導入	農業、加工業、流通等との連携をすすめ、学校給食の食材となる新たな加工品等の開発・導入を検討します。 【学校給食共同調理場】	子ども 保護者	学校
児童生徒等意 見の活用	児童生徒を対象に、地元産食材を活用したアイデアレシピを募集し、学校給食への活用を検討します。 【学校給食共同調理場】	子ども 保護者	学校
料理体験教室 の実施	児童生徒や保護者などを対象に、地元産食材を活用した給食メニューなどの料理教室を実施します。 【学校給食共同調理場】	子ども 保護者	学校
バスツアーの 実施	農畜産物の加工現場の理解を深めるため、加工施設を巡るバスツアーを実施します。 【農政課】	青年 壮年 中年 高齢者	地域
直売所の開催	帯広の森市民農園のおはよう朝市やとかち大平原交流センターの夕市等の直売所を開催します。 【農政課】	青年 壮年 中年 高齢者	地域

区分	取り組み内容	対 象	展開の場面
学校給食の情報提供	地元産食材を活用した学校給食メニューの料理方法などの情報を提供します。 【学校給食共同調理場】	青年 壮年 中年 高齢者	地域
農作業体験の場の提供	市民農園や学童農園などの農作業体験の場を提供します。 【農政課】	全体	保育所 学校 地域
牛乳消費拡大事業の実施	様々なイベント等の機会を通して牛乳消費拡大に向けた取り組みを実施します。 【農政課】	全体	地域
農業理解、地産地消を取り入れた講座の実施	各種講座において、農業理解・地産地消を取り入れた講座を実施します。 【生涯学習課】	全体	地域
サポーター制度の実施	学校や地域において食育の取り組みをすすめる食育推進サポーターの登録制度を実施します。 【農政課】	全体	地域
ホームページによる情報発信	農政課が管理するホームページにより、関係機関等が実施する食育関連事業を掲載した食育イベントカレンダーや安全安心な地元農畜産物の生産の取り組みなどの情報を提供します。 【農政課】	全体	地域
イベント等を通じた啓発（再掲）	健康まつり、食育フェスティバルなど、様々なイベントを通して、食育に関する啓発を実施します。 【各課・関係団体】	全体	地域

取 り 組 み 事 例

農業体験学習の実施



帯広市農業技術センターにおいて、地元の主要農作物を栽培展示し、見学者に作物の説明、収穫体験などを実施し、農業への理解を深めます。

写真は、作物の説明の様子と空中かぼちゃの見学の様子。

取 り 組 み 事 例

親子料理教室の実施



小学生以上の親子を対象に、栄養バランスをはじめ、農業や地元産食材への理解と関心を深めるため、料理教室を実施します。

取り組み事例

直売所の開催



生産者と消費者との交流や地産地消を推進するため、帯広の森市民農園での「おはよう朝市」・ととかち大平原交流センター等での「夕市」・「軽トラ夕市」を開催します。

写真は、「軽トラ夕市」とととかち大平原交流センターでの「夕市」。

取り組み事例

食育イベント等での食育の推進



健康で豊かな毎日を送るために欠かすことのできない「食」について、広く市民の皆さんに関心をもってもらうため、健康まつり、食育フェスティバルなど、様々なイベントを通して、食育に関する啓発を実施します。

第4章 計画の推進体制と進捗管理について

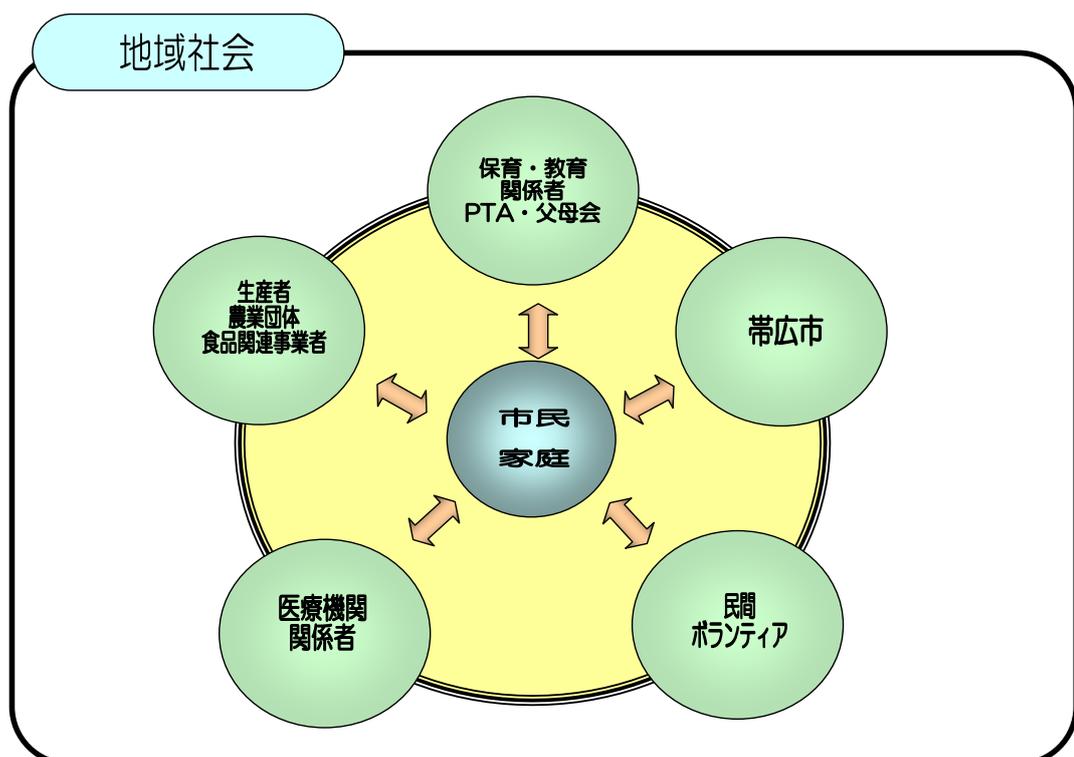
1. 推進体制・進捗管理

食育は、栄養に関することをはじめ、規則正しい食習慣の形成、食べ物や食にかかわる人への感謝の心、食の安全・安心や環境への正しい理解など、非常に幅広い分野にわたることから、その推進にあたっては、市民、保育・教育関係者、生産者、食品関連事業者、行政等がそれぞれの役割のもと連携を図り取り組む必要があります。

本計画の推進に向けては、庁内関係各課や関係団体等が連携を図り、総合的に食育の取り組みを推進します。

また、計画の進捗管理については、食育の推進状況を定量的に把握するため、客観的な指標を設定するとともに、庁内関係各課で構成する「食育推進委員会」において行います。

推進体制のイメージ



2. 食育推進にあたっての役割

(1) 市民・家庭の役割

市民一人ひとりが食への関心を高め、自ら食に関する正しい知識や情報を選択する力を身につけ、生涯にわたり健康で心豊かな生活を実践することが求められています。

市民は、地域社会の一員として、関係団体、行政等と連携し、地域全体で食育に取り組んでいく必要があります。

また、家庭は、子どもが基本的な生活習慣を身につける「最も大切な食育の実践の場」として、大きな役割を担っています。家族一緒に食卓を囲むことを通して、食に関する正しい知識を身につける、食の楽しさを実感するなど、日常生活の中で自ら食育を実践することが必要です。

(2) 保育所・学校等の役割

幼稚園や保育所、学校は、子どもの健全な食習慣の形成と豊かな人間性を育むうえで、重要な役割を果たしています。

保育所や学校等が、家庭や地域等と連携を図り、子どもが食の大切さや楽しさを学ぶことができるよう、食育を推進することが大切です。

(3) 関係団体等の役割

家庭や学校における取り組みのほか、食育を社会全体の運動として推進するためには、生産者や農業団体、食品関連事業者、自主的な活動をしている団体等による幅広い活動が求められます。

食育を地域に根付いたものとするためにも、関係団体等がそれぞれの立場でそれぞれの役割を担い、市民や学校、行政等と連携した活動を自らすすめる必要があります。

(4) 帯広市の役割

関係する各部が連携しながら、市民や関係団体等とともに食育に取り組み、保育、教育、健康、農業等それぞれの分野における施策を総合的・計画的にすすめていきます。

また、食育を市民主体の運動として推進していくため、食生活の改善や健康づくりの推進に取り組むボランティアをはじめ市民団体等と連携した活動をすすめます。



<< 参 考 资 料 >>

◆ YES！ clean 表示制度

道内で生産された農産物を対象に、農産物ごとに定められた化学肥料・化学合成農薬の使用状況や他の農産物との分別収穫・保管・出荷、生産集団の構成員による栽培履歴の記帳など、一定の基準をクリアした生産集団が生産・出荷する農産物（YES！ clean農産物）に、「YES！ cleanマーク」を表示し、併せて、化学肥料や化学合成農薬の使用回数などの栽培情報を知らせる北海道独自の表示制度。北海道クリーン農業推進協議会が策定した北のクリーン農産物表示要領に基づいており、正式名称は「北のクリーン農産物表示制度」。

◆ 遺伝子組換え食品

遺伝子組換え技術によって作られた農作物及びこれを加工して製造された食品のこと。遺伝子組換え技術とは、ある生物がもつ有用な性質を持つ遺伝子を取り出し、植物などの細胞の遺伝子に組み込み、新たな性質を加える技術のこと。

◆ エコファーマー

平成11年に施行された「持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律（持続農業法）」に基づいて、たい肥等を使った土づくりと化学肥料や農薬の使用を減らした農家で、各都道府県の知事が認定した農業者の愛称。

◆ 温室効果ガス

地球に温室効果（太陽からの熱を地球に封じ込め、地表を暖める）をもたらす気体の総称のこと。二酸化炭素・メタン・亜酸化窒素・フロンなど。

◆ 化学肥料

化学的に合成しあるいは天然産の原料を化学的に加工して作った肥料のこと。硫酸・硝酸・尿素・過磷酸（かりんさん）石灰・硫酸カリなど。

◆ 化学合成農薬

農薬のうち、化学合成されたもののこと。有機リン系殺虫剤・殺菌剤・除草剤など。

◆ 核家族世帯

夫婦のみの世帯、夫婦と子どもから成る世帯、男親と子どもから成る世帯、女親と子どもから成る世帯をいう。

◆ 学校栄養職員

食に関する専門家として児童生徒の生涯にわたる心身の健康づくりをめざし、学校給食の栄養管理、衛生管理などの職務はもとより、給食指導や教科指導において専門的な立場で協力しながら、健康教育を推進する者。

◆ 教育ファーム

生産者（農林漁業者）の指導を受けながら、作物を育てるところから食べるところまで、一貫した「本物体験」の機会を提供する取り組みをいう。体験を通して自然の力やそれを生かす生産者の知恵と工夫を学び、生産者の苦労や喜び、食べものの大切さを実感し理解してもらうことを目的としている。

◆ 行事食

四季折々で自然の恵みに感謝し、古くから人々が育んできた祭りや行事など特別な日に食される料理のこと。正月・ひな祭り・こどもの日などの料理がある。

◆ クリーン農業

たい肥等の有機物の施用などによる土づくりに努め、化学肥料や化学合成農薬の使用を必要最小限にとどめるなど、農業の自然循環機能を維持増進させ、環境との調和に配慮した、安全・安心、品質の高い農産物の生産を進める農業をいう。

◆ 高齢者世帯

65歳以上の者のみで構成されている世帯のこと。

◆ 孤食

家族と暮らしていながら、親や子どもがそれぞれ違う時間に一人ひとり食事をとること。また、一人暮らしの人が一人でとる食事のこと。

◆ 個食

家族そろっての食卓で、それぞれが自分の好きな料理を別々に食べる食事のこと。

◆ 主食・主菜・副菜

主食とは、米、パン、めん類などの穀類で、主として糖質エネルギーの供給源、主菜とは、魚や肉、卵、大豆製品などを使った副食の中心となる料理で、主として良質たんぱく質や脂肪の供給源、また、副菜とは、野菜などを使った料理、主食と主菜に不足するビタミン、ミネラル、食物繊維などを補う重要な役割を果たす。

主食、主菜、副菜を基本とすることにより、多様な食品を組み合わせ、必要な栄養素

をバランスよくとることができる。

◆ 賞味期限・消費期限

賞味期限は、食品を定められた方法により保存した場合に、期待されるすべての品質の保持が十分に可能であると認められる期限を示す年月日のこと。ただし、当該期限を超えた場合であっても、これらの品質が保持されていることはあるとされている。食品の劣化速度が比較的緩慢な食品についての期限表示で、容器包装を開封する前の期限を示す。

消費期限は、食品を定められた方法により保存した場合に、腐敗、変敗その他の品質の劣化に伴い、安全性を欠くこととなるおそれがないと認められる期限を示す年月日のこと。品質が劣化しやすく、製造日を含めて概ね5日以内で品質が急速に劣化する食品に表示する。期限表示で容器包装を開封する前の期限を示す。

◆ 食育基本法

平成17年に成立した食育に関する法律。国民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むため、食育に関し、基本理念を定め、国及び地方公共団体等の責務を明らかにするとともに、食育に関する施策の基本となる事項を定めることにより、食育に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって現在及び将来にわたる健康で文化的な国民の生活と豊かで活力ある社会の実現に寄与することを目的として、同年7月15日から施行。

◆ 食育月間・食育の日

食育推進運動を重点的・効果的に実施するため、毎年6月を食育月間、毎月19日を食育の日と国が定めたもの。

◆ 食育指導専門員

食育の指導体制の充実を図り、学校での食育を推進するために、帯広市独自で配置する専門員のこと。

◆ 食育推進サポーター制度（帯広市）

郷土料理を作る技術、作物を育てる技術、栄養の知識など、食に関する様々な専門技術や知識を持つ方々を「食育推進サポーター」として登録し、学校や地域などで食育を推進する活動をしてもらう制度のこと。

◆ 食事バランスガイド

食生活指針を具体的に実践へと結びつけるために作られたもの。1日に何をどれだけ食べたら良いか、望ましい食事のとり方やおよその量をわかりやすくコマ型のイラストで表している。

◆ 食生活改善推進員

正しい知識と技術を持って、自らよりよい健康生活の実践者となり、その上で地域の実情に即した効果的な手段で「私たちの健康は私たちの手で」の精神にのっとり、住民参加を促し、継続的に食生活改善を中心とする組織的な活動を進めているボランティアのこと。

◆ 食生活指針

平成12年に文部省（現文部科学省）、厚生省（現厚生労働省）、農林水産省の3省で共同作成されたもので、健全な食生活を実現するため、健康・栄養面はもちろんのこと、環境や食文化の関係など10項目からなる食生活のための指針。

- ①食事を楽しみましょう。
- ②1日の食事のリズムから、健やかな生活リズムを。
- ③主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを。
- ④ごはんなどの穀類をしっかりと。
- ⑤野菜・果物、牛乳・乳製品、豆類、魚なども組み合わせて。
- ⑥食塩や脂肪は控えめに。
- ⑦適正体重を知り、日々の活動に見合った食事量を。
- ⑧食文化や地域の産物を活かし、ときには新しい料理も。
- ⑨調理や保存を上手にして無駄や廃棄を少なく。
- ⑩自分の食生活を見直してみましょう。

◆ 食の外部化

飲食店等で食事をする外食はもとより、従来、家庭内で行われていた調理や食事を家庭外に依存するようになること。

◆ 食品添加物

食品衛生法において、「食品添加物」とは、食品の製造の過程において使用されるもの、又は食品の加工若しくは保存などの目的で添加、混和などの方法により使用されるものと定義されている。

食品添加物は、食品とともに人が摂取するものであり、安全性が十分確認されたものであることが必要である。このため、食品添加物は食品衛生法に基づき「人の健康を損なうおそれのない場合」として、厚生労働大臣が定める(指定する)もの以外は原則として使用が認められない。

◆ 生活習慣病

食事の偏りや食べすぎ、運動不足、多量飲酒、喫煙などよくない生活習慣の積み重ねによって引き起こされる病気のこと。代表例としては、糖尿病、脳卒中、心臓病、高脂血症、高血圧、肥満。

◆ 単独世帯

世帯員が一人だけの世帯のこと。具体的には、未婚のほか、離別・死別・子の独立などを経て、単身で暮らす人のこと。

◆ 地産地消

地元で生産されたもの（農畜産物）を地元で消費することをいう。生産者と消費者の距離が近くなり、消費者の地場産物に対する愛着心や安心感が深まり、地場産物の消費拡大にも結びつく。

◆ 中食

飲食店などで食べる食事（外食）や家庭で料理して食べる食事（内食）に対して、惣菜や弁当などを持ち帰り、家でする食事のこと。また、その食品のことをいう。スーパーや弁当屋、コンビニエンスストアなどで販売される惣菜や弁当などが該当する。

◆ 日本型食生活

米、魚、野菜、大豆を中心とした日本の伝統的な食生活パターンに肉類や乳製品、果物などが適度に加わった栄養バランスのとれた健康的な食生活のことを指す。

◆ BMI (Body Mass Index) 体格指数

肥満ややせ過ぎの判定法。体重 (kg) ÷ 身長 (m) ÷ 身長 (m) 。

18.5未満がやせ、18.5以上25.0未満が正常、25.0以上で肥満と判断される。

◆ フードマイレージ

英国の消費者運動家ティム・ラングが1994年から提唱している概念で、食料の生産地から食卓までの距離に着目し、なるべく近くでとれた食料を食べた方が、輸送に伴う環境への負担が少なくなるという考え方。輸入食料に係るフードマイレージは、輸入相手国からの輸入量と輸送距離を乗じて求められる。

◆ メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）

内臓脂肪型肥満を共通の要因として、高血糖、脂質異常、高血圧が引き起こされる状態のこと。それぞれが重複した場合は命にかかわる病気を招くこともある。ただし、食べ過ぎや運動不足など、悪い生活習慣の積み重ねが原因となって起こるため、生活習慣の改善によって、予防・改善できる。

◆ 有機 JAS マーク

JAS マーク（国が定めた規格、基準に合格し品質が確かだと認められた、加工食品などについているマーク）の一つで、有機農産物や有機農産物加工品に付けられるマーク。

◆ 有機農業

化学的に合成された肥料及び農薬を使用しないこと並びに遺伝子組換え技術を利用しないことを基本として、農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減した農業生産の方法を用いて行われる農業をいう。

◆ 酪農教育ファーム

社団法人中央酪農会議から、安全や衛生管理など一定の基準に達した牧場に対して「教育を行うのに適正な牧場である」として、認証・登録された牧場。「食といのちの学び」をテーマに、酪農体験や動物とのふれあいを通じた教育活動を行う。

酪農教育ファーム制度は、平成10年から実施されている。

<<平成22年度食育に関するアンケート集計結果>>

平成23年3月実施

Ⅰ 幼児・小学生・中学生・保護者対象

調査数：配布数15,832枚 回収数10,597枚 回収率66.9%

1. 「児童生徒の性別」

選択項目	幼児		小学生		中学生		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
男	636	48.0%	2,370	38.3%	1,376	45.2%	7	18.9%
女	580	43.8%	2,561	41.4%	1,416	46.5%	10	27.0%
無回答	109	8.2%	1,257	20.3%	255	8.4%	20	54.1%
計	1,325	100.0%	6,188	100.0%	3,047	100.0%	37	100.0%

2. 「児童生徒は朝ごはんを食べるか」

選択項目	幼児		小学生		中学生		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
毎日食べる	1,174	88.6%	5,755	93.0%	2,747	90.2%	24	64.9%
週に1～2日食べないことがある	108	8.2%	275	4.4%	194	6.4%	3	8.1%
週に3～4日食べないことがある	21	1.6%	59	1.0%	33	1.1%	0	0.0%
ほとんど食べない	13	1.0%	67	1.1%	63	2.1%	1	2.7%
無回答	9	0.7%	32	0.5%	10	0.3%	9	24.3%
計	1,325	100.0%	6,188	100.0%	3,047	100.0%	37	100.0%

3. 「2で“食べないことがある。”“食べない。”と回答した人：朝ごはんを食べない理由」

選択項目	幼児		小学生		中学生		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
食欲がなくて食べられない	78	54.9%	129	32.2%	81	27.9%	4	100.0%
時間がなくて食べられない	39	27.5%	190	47.4%	150	51.7%	0	0.0%
食べない習慣だから	2	1.4%	16	4.0%	13	4.5%	0	0.0%
その他	17	12.0%	35	8.7%	30	10.3%	0	0.0%
無回答	6	4.2%	31	7.7%	16	5.5%	0	0.0%
計	142	100.0%	401	100.0%	290	100.0%	4	100.0%

4. 「児童生徒が野菜を食べる頻度」

選択項目	幼児		小学生		中学生		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
1日に3回食べる（毎食）	372	28.1%	1,690	27.3%	805	26.4%	12	32.4%
1日に1回は食べる	922	69.6%	4,209	68.0%	2,077	68.2%	17	45.9%
ほとんど食べない	24	1.8%	263	4.3%	142	4.7%	1	2.7%
無回答	7	0.5%	26	0.4%	23	0.8%	7	18.9%
計	1,325	100.0%	6,188	100.0%	3,047	100.0%	37	100.0%

5. 「児童生徒が乳製品を摂る頻度」

選択項目	幼児		小学生		中学生		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
週に5日以上	835	63.0%	4,232	68.4%	1,993	65.4%	18	48.6%
週に3～4日	366	27.6%	1,269	20.5%	617	20.2%	7	18.9%
週に1～2日	98	7.4%	556	9.0%	357	11.7%	3	8.1%
ほとんど摂っていない	22	1.7%	116	1.9%	76	2.5%	2	5.4%
無回答	4	0.3%	15	0.2%	4	0.1%	7	18.9%
計	1,325	100.0%	6,188	100.0%	3,047	100.0%	37	100.0%

6. 「児童生徒は農作業体験をしたことがあるか」

選択項目	幼児		小学生		中学生		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
ある	744	56.2%	5,478	88.5%	2,634	86.4%	21	56.8%
ない	570	43.0%	697	11.3%	406	13.3%	7	18.9%
無回答	11	0.8%	13	0.2%	7	0.2%	9	24.3%
計	1,325	100.0%	6,188	100.0%	3,047	100.0%	37	100.0%

7. 「6で“ある”と回答した人：農業体験内容」（すべて）

選択項目	幼児		小学生		中学生		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
じゃがいも収穫	596	62.7%	5,082	64.1%	2,431	65.1%	20	66.7%
牛の乳搾り	23	2.4%	1,153	14.6%	615	16.5%	6	20.0%
その他	302	31.8%	1,573	19.9%	657	17.6%	4	13.3%
無回答	29	3.1%	116	1.5%	29	0.8%	0	0.0%
計	950	100.0%	7,924	100.0%	3,732	100.0%	30	100.0%

8. 「児童生徒は夕食を誰と食べるか」

選択項目	幼児		小学生		中学生		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
家族全員	662	50.0%	3,007	48.6%	1,261	41.4%	11	29.7%
家族の誰かと	642	48.5%	3,072	49.6%	1,686	55.3%	17	45.9%
家族以外のだれかと	7	0.5%	34	0.5%	10	0.3%	1	2.7%
一人が多い	3	0.2%	33	0.5%	76	2.5%	1	2.7%
無回答	11	0.8%	42	0.7%	14	0.5%	7	18.9%
計	1,325	100.0%	6,188	100.0%	3,047	100.0%	37	100.0%

9. 「児童生徒は嫌いなものをどうするか」

選択項目	幼児		小学生		中学生		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
がまんして食べる	450	34.0%	2,802	45.3%	1,247	40.9%	17	45.9%
学校では食べるが、家では食べない	422	31.8%	1,288	20.8%	535	17.6%	3	8.1%
学校では食べないが、家では食べる	7	0.5%	335	5.4%	185	6.1%	1	2.7%
食べないで残す	283	21.4%	1,079	17.4%	801	26.3%	9	24.3%
その他	133	10.0%	558	9.0%	233	7.6%	0	0.0%
無回答	30	2.3%	126	2.0%	46	1.5%	7	18.9%
計	1,325	100.0%	6,188	100.0%	3,047	100.0%	37	100.0%

10. 「児童生徒が食事を楽しいと感じる時は」（3つまで）

選択項目	幼児		小学生		中学生		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
好きな物を食べる	1,028	29.3%	4,085	23.9%	2,368	29.5%	22	25.9%
朝食	21	0.6%	67	0.4%	37	0.5%	0	0.0%
学校給食	198	5.7%	1,222	7.2%	519	6.5%	8	9.4%
夕食	140	4.0%	676	4.0%	490	6.1%	2	2.4%
外食	515	14.7%	2,944	17.3%	1,553	19.3%	12	14.1%
屋外での食事（バーベキューなど）	498	14.2%	3,052	17.9%	1,298	16.2%	15	17.6%
自分が作ったり、手伝ったりした食事	578	16.5%	3,055	17.9%	911	11.3%	11	12.9%
家族揃っての食事	491	14.0%	1,763	10.3%	776	9.7%	7	8.2%
無回答	35	1.0%	196	1.1%	75	0.9%	8	9.4%
計	3,504	100.0%	17,061	100.0%	8,027	100.0%	85	100.0%

1 1. 「児童生徒の朝ごはんの主食は」

選択項目	幼児		小学生		中学生		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
ごはん	798	60.2%	4,022	65.0%	2,033	66.7%	21	56.8%
パン	468	35.3%	1,956	31.6%	905	29.7%	8	21.6%
その他	38	2.9%	146	2.4%	86	2.8%	0	0.0%
無回答	21	1.6%	64	1.0%	21	0.7%	8	21.6%
計	1,325	100.0%	6,188	100.0%	3,047	100.0%	37	100.0%

1 2. 「児童生徒は給食パンが地元産小麦と知っているか」

選択項目	幼児		小学生		中学生		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
知っている	76	5.7%	2,514	40.6%	1,767	58.0%	12	32.4%
知らない	1,199	90.5%	3,609	58.3%	1,241	40.7%	18	48.6%
無回答	50	3.8%	65	1.1%	39	1.3%	7	18.9%
計	1,325	100.0%	6,188	100.0%	3,047	100.0%	37	100.0%

1 3. 「児童生徒はおやつを食べるか」

選択項目	幼児		小学生		中学生		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
毎日2回以上食べる	132	10.0%	453	7.3%	262	8.6%	4	10.8%
毎日1回食べる	685	51.7%	3,532	57.1%	1,430	46.9%	14	37.8%
週に4～5日食べる	159	12.0%	1,020	16.5%	518	17.0%	8	21.6%
週に2～3日食べる	263	19.8%	906	14.6%	593	19.5%	2	5.4%
ほとんど食べない	83	6.3%	267	4.3%	239	7.8%	2	5.4%
無回答	3	0.2%	10	0.2%	5	0.2%	7	18.9%
計	1,325	100.0%	6,188	100.0%	3,047	100.0%	37	100.0%

1 4. 「児童生徒は夜食を食べるか」

選択項目	幼児		小学生		中学生		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
週に5日以上食べる	68	5.1%	191	3.1%	144	4.7%	3	8.1%
週に3～4日食べる	104	7.8%	419	6.8%	293	9.6%	3	8.1%
週に1～2日食べる	212	16.0%	962	15.5%	635	20.8%	3	8.1%
ほとんど食べない	936	70.6%	4,595	74.3%	1,964	64.5%	19	51.4%
無回答	5	0.4%	21	0.3%	11	0.4%	9	24.3%
計	1,325	100.0%	6,188	100.0%	3,047	100.0%	37	100.0%

1 5. 「児童生徒の起床時間」

選択項目	幼児		小学生		中学生		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
午前6時より前	47	3.5%	162	2.6%	96	3.2%	0	0.0%
午前6～7時頃	831	62.7%	4,650	75.1%	1,895	62.2%	21	56.8%
午前7～8時頃	415	31.3%	1,252	20.2%	981	32.2%	7	18.9%
午前8時より後	16	1.2%	11	0.2%	7	0.2%	0	0.0%
無回答	16	1.2%	113	1.8%	68	2.2%	9	24.3%
計	1,325	100.0%	6,188	100.0%	3,047	100.0%	37	100.0%

16. 「児童生徒の就寝時間」

選択項目	幼児		小学生		中学生		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
午後9時より前	246	18.6%	745	12.0%	8	0.3%	1	2.7%
午後9～10時頃	774	58.4%	3,565	57.6%	310	10.2%	11	29.7%
午後10～11時頃	170	12.8%	1,209	19.5%	1,161	38.1%	5	13.5%
午後11～12時頃	11	0.8%	148	2.4%	1,061	34.8%	7	18.9%
午前0時以降	1	0.1%	7	0.1%	225	7.4%	1	2.7%
無回答	123	9.3%	514	8.3%	282	9.3%	12	32.4%
計	1,325	100.0%	6,188	100.0%	3,047	100.0%	37	100.0%

17. 「児童生徒が保健室を利用する頻度」

選択項目	幼児		小学生		中学生		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
ほぼ毎日	16	1.2%	56	0.9%	42	1.4%	1	2.7%
週に1～2日	6	0.5%	292	4.7%	96	3.2%	2	5.4%
月に1～2日	18	1.4%	1,224	19.8%	393	12.9%	3	8.1%
ほとんど利用しない	903	68.2%	4,414	71.3%	2,390	78.4%	19	51.4%
無回答	382	28.8%	202	3.3%	126	4.1%	12	32.4%
計	1,325	100.0%	6,188	100.0%	3,047	100.0%	37	100.0%

18. 「保護者は朝ごはんを食べるか」

選択項目	幼児保護者		小学生保護者		中学生保護者		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
毎日食べる	916	69.1%	4,496	72.7%	2,200	72.2%	17	45.9%
週に1～2日食べないことがある	168	12.7%	666	10.8%	339	11.1%	3	8.1%
週に3～4日食べないことがある	57	4.3%	277	4.5%	119	3.9%	3	8.1%
ほとんど食べない	165	12.5%	714	11.5%	376	12.3%	5	13.5%
無回答	19	1.4%	35	0.6%	13	0.4%	9	24.3%
計	1,325	100.0%	6,188	100.0%	3,047	100.0%	37	100.0%

19. 「18で“食べないことがある。”“食べない。”と回答した人：朝ごはんを食べない理由」

選択項目	幼児保護者		小学生保護者		中学生保護者		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
食欲がなくて食べられない	91	23.3%	415	25.0%	228	27.3%	3	27.3%
時間がなくて食べられない	181	46.4%	625	37.7%	299	35.9%	4	36.4%
食べない習慣だから	82	21.0%	413	24.9%	223	26.7%	3	27.3%
その他	20	5.1%	115	6.9%	51	6.1%	0	0.0%
無回答	16	4.1%	89	5.4%	33	4.0%	1	9.1%
計	390	100.0%	1,657	100.0%	834	100.0%	11	100.0%

20. 「保護者が野菜を食べる頻度」

選択項目	幼児保護者		小学生保護者		中学生保護者		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
1日に3回食べる（毎食）	305	23.0%	1,477	23.9%	715	23.5%	9	24.3%
1日に1回は食べる	972	73.4%	4,544	73.4%	2,213	72.6%	19	51.4%
ほとんど食べない	44	3.3%	146	2.4%	98	3.2%	1	2.7%
無回答	4	0.3%	21	0.3%	21	0.7%	8	21.6%
計	1,325	100.0%	6,188	100.0%	3,047	100.0%	37	100.0%

2 1. 「保護者が乳製品を摂る頻度」

選択項目	幼児保護者		小学生保護者		中学生保護者		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
週に5日以上	491	37.1%	2,501	40.4%	1,220	40.0%	10	27.0%
週に3～4日	378	28.5%	1,497	24.2%	699	22.9%	8	21.6%
週に1～2日	331	25.0%	1,548	25.0%	798	26.2%	10	27.0%
ほとんど摂っていない	123	9.3%	633	10.2%	322	10.6%	2	5.4%
無回答	2	0.2%	9	0.1%	8	0.3%	7	18.9%
計	1,325	100.0%	6,188	100.0%	3,047	100.0%	37	100.0%

2 2. 「保護者が手料理を作る頻度」

選択項目	幼児保護者		小学生保護者		中学生保護者		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
週に5日以上	1,108	83.6%	5,575	90.1%	2,689	88.3%	27	73.0%
週に3～4日	146	11.0%	394	6.4%	232	7.6%	0	0.0%
週に1～2日	47	3.5%	120	1.9%	77	2.5%	3	8.1%
ほとんど作らない	22	1.7%	84	1.4%	41	1.3%	0	0.0%
無回答	2	0.2%	15	0.2%	8	0.3%	7	18.9%
計	1,325	100.0%	6,188	100.0%	3,047	100.0%	37	100.0%

2 3. 「保護者の手料理の味付け」

選択項目	幼児保護者		小学生保護者		中学生保護者		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
濃いほう	199	15.0%	906	14.6%	460	15.1%	9	24.3%
普通	893	67.4%	4,238	68.5%	2,113	69.3%	13	35.1%
薄いほう	231	17.4%	1,024	16.5%	463	15.2%	7	18.9%
無回答	2	0.2%	20	0.3%	11	0.4%	8	21.6%
計	1,325	100.0%	6,188	100.0%	3,047	100.0%	37	100.0%

2 4. 「食事のマナーで気をつけること」(3つまで)

選択項目	幼児保護者		小学生保護者		中学生保護者		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
TVなどを視聴しながら食べない	405	11.8%	1,351	8.1%	339	4.3%	9	10.6%
食事の過度なおしゃべりをしない	175	5.1%	574	3.4%	172	2.2%	2	2.4%
ひじをついて食べない	986	28.8%	4,822	28.8%	2,474	31.3%	21	24.7%
食べる時の姿勢	720	21.1%	3,876	23.2%	1,822	23.1%	18	21.2%
食べ物を口の中に入れてそのまま話さない	436	12.8%	1,934	11.6%	926	11.7%	10	11.8%
音を立てて食べない	320	9.4%	2,111	12.6%	1,225	15.5%	7	8.2%
箸の正しい持ち方	231	6.8%	1,630	9.7%	744	9.4%	9	10.6%
その他	88	2.6%	212	1.3%	97	1.2%	1	1.2%
無回答	58	1.7%	225	1.3%	98	1.2%	8	9.4%
計	3,419	100.0%	16,735	100.0%	7,897	100.0%	85	100.0%

2 5. 「保護者は農作業体験をしたことがあるか」

選択項目	幼児保護者		小学生保護者		中学生保護者		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
ある	1,126	85.0%	5,435	87.8%	2,630	86.3%	26	70.3%
ない	198	14.9%	746	12.1%	410	13.5%	4	10.8%
無回答	1	0.1%	6	0.1%	7	0.2%	7	18.9%
計	1,325	100.0%	6,188	100.0%	3,047	100.0%	37	100.0%

26. 「保護者は自分の適性体重を知っているか」

選択項目	幼児保護者		小学生保護者		中学生保護者		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
知っている	1,102	83.2%	5,365	86.7%	2,731	89.6%	27	73.0%
知らない	221	16.7%	810	13.1%	310	10.2%	3	8.1%
無回答	2	0.2%	13	0.2%	6	0.2%	7	18.9%
計	1,325	100.0%	6,188	100.0%	3,047	100.0%	37	100.0%

27. 「保護者の朝ごはんの主食は」

選択項目	幼児保護者		小学生保護者		中学生保護者		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
ごはん	773	58.3%	3,890	62.9%	1,954	64.1%	15	40.5%
パン	443	33.4%	1,839	29.7%	865	28.4%	10	27.0%
その他	76	5.7%	336	5.4%	145	4.8%	3	8.1%
無回答	33	2.5%	123	2.0%	83	2.7%	9	24.3%
計	1,325	100.0%	6,188	100.0%	3,047	100.0%	37	100.0%

28. 「保護者の家庭での米は道産米か」

選択項目	幼児保護者		小学生保護者		中学生保護者		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
道産米が多い	835	63.0%	4,093	66.1%	1,984	65.1%	17	45.9%
たまに道産米を使う	329	24.8%	1,233	19.9%	647	21.2%	10	27.0%
ほとんど道産米を使わない	152	11.5%	815	13.2%	397	13.0%	2	5.4%
無回答	9	0.7%	47	0.8%	19	0.6%	8	21.6%
計	1,325	100.0%	6,188	100.0%	3,047	100.0%	37	100.0%

29. 「保護者は給食パンが地元産小麦と知っているか」

選択項目	幼児保護者		小学生保護者		中学生保護者		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
知っている	576	43.5%	4,186	67.6%	2,218	72.8%	18	48.6%
知らない	743	56.1%	1,993	32.2%	819	26.9%	12	32.4%
無回答	6	0.5%	9	0.1%	10	0.3%	7	18.9%
計	1,325	100.0%	6,188	100.0%	3,047	100.0%	37	100.0%

30. 「保護者は地元産食材を使うか」

選択項目	幼児保護者		小学生保護者		中学生保護者		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
よく使う	687	51.8%	3,611	58.4%	1,806	59.3%	18	48.6%
たまに使う	566	42.7%	2,379	38.4%	1,143	37.5%	12	32.4%
ほとんど使わない	52	3.9%	123	2.0%	42	1.4%	1	2.7%
無回答	20	1.5%	75	1.2%	56	1.8%	6	16.2%
計	1,325	100.0%	6,188	100.0%	3,047	100.0%	37	100.0%

31. 「30で“よく使う。”“たまに使う。”と回答した人：地元産食材の購入先」（すべて）

選択項目	幼児保護者		小学生保護者		中学生保護者		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
スーパー	1,149	65.6%	5,559	65.4%	2,731	67.2%	26	61.9%
朝市・夕市	76	4.3%	376	4.4%	172	4.2%	3	7.1%
直売所	338	19.3%	1,766	20.8%	787	19.4%	8	19.0%
通販	28	1.6%	125	1.5%	65	1.6%	0	0.0%
その他	136	7.8%	563	6.6%	255	6.3%	4	9.5%
無回答	24	1.4%	111	1.3%	51	1.3%	1	2.4%
計	1,751	100.0%	8,500	100.0%	4,061	100.0%	42	100.0%

3 2. 「保護者が考える“食育”の対象者」（3つまで）

選択項目	幼児保護者		小学生保護者		中学生保護者		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
乳幼児（おおむね0～5歳）	1,048	30.4%	4,106	25.7%	1,778	23.3%	20	24.1%
小・中・高校生	1,090	31.7%	5,534	34.6%	2,630	34.4%	26	31.3%
若い世代（おおむね19～39歳）	514	14.9%	2,827	17.7%	1,296	17.0%	14	16.9%
中高年の世代（おおむね40～64歳）	70	2.0%	563	3.5%	387	5.1%	3	3.6%
高齢者（おおむね65歳以上）	86	2.5%	428	2.7%	292	3.8%	1	1.2%
妊婦・授乳婦	434	12.6%	1,491	9.3%	621	8.1%	12	14.5%
ひとり暮らしの人	86	2.5%	486	3.0%	291	3.8%	1	1.2%
医療・介護を受けている人	58	1.7%	325	2.0%	185	2.4%	0	0.0%
その他	20	0.6%	83	0.5%	49	0.6%	1	1.2%
無回答	36	1.0%	145	0.9%	114	1.5%	5	6.0%
計	3,442	100.0%	15,988	100.0%	7,643	100.0%	83	100.0%

3 3. 「保護者が考える“食育”の効果的取り組み主体」

選択項目	幼児保護者		小学生保護者		中学生保護者		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
家庭	604	45.6%	3,346	54.1%	1,751	57.5%	21	56.8%
保育所や学校	456	34.4%	1,698	27.4%	634	20.8%	5	13.5%
行政	39	2.9%	200	3.2%	125	4.1%	0	0.0%
外食産業	23	1.7%	83	1.3%	36	1.2%	1	2.7%
企業	5	0.4%	29	0.5%	23	0.8%	0	0.0%
地域	36	2.7%	162	2.6%	100	3.3%	2	5.4%
その他	13	1.0%	33	0.5%	9	0.3%	1	2.7%
無回答	149	11.2%	637	10.3%	369	12.1%	7	18.9%
計	1,325	100.0%	6,188	100.0%	3,047	100.0%	37	100.0%

3 4. 「保護者が考える市に期待する役割」（すべて）

選択項目	幼児保護者		小学生保護者		中学生保護者		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
食と健康に関する市民講座や教室を開催する	157	3.7%	836	4.3%	411	4.6%	4	5.1%
学校給食で地元農畜産物の利用を促進する	761	18.1%	3,780	19.6%	1,680	18.9%	11	13.9%
直売所など地元農畜産物を購入できる場所を整備する	473	11.3%	2,058	10.7%	965	10.9%	6	7.6%
市民参加型の体験農園を増やす	244	5.8%	1,041	5.4%	364	4.1%	3	3.8%
学校・幼稚園などで作物栽培・料理の機会を増やす	921	21.9%	3,599	18.6%	1,452	16.4%	13	16.5%
地元農畜産物の安全優位性についての情報発信を積極的に行う	234	5.6%	1,356	7.0%	796	9.0%	6	7.6%
郷土料理、伝統料理などの優れた食文化の継承に取り組む	296	7.0%	1,366	7.1%	585	6.6%	10	12.7%
食品の安全性その他食の選択ができるよう情報提供をする	335	8.0%	1,619	8.4%	926	10.4%	5	6.3%
家庭・学校・地域（団体・企業等）との連携	446	10.6%	1,907	9.9%	817	9.2%	6	7.6%
学校での総合的な指導	238	5.7%	1,310	6.8%	568	6.4%	5	6.3%
特にない	36	0.9%	153	0.8%	117	1.3%	3	3.8%
その他	15	0.4%	98	0.5%	47	0.5%	0	0.0%
無回答	46	1.1%	190	1.0%	140	1.6%	7	8.9%
計	4,202	100.0%	19,313	100.0%	8,868	100.0%	79	100.0%

35. 「保護者は“食育サポーター登録制度”に協力できるか」

選択項目	幼児保護者		小学生保護者		中学生保護者		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
ぜひ協力したい	78	5.9%	318	5.1%	129	4.2%	3	8.1%
協力できる	541	40.8%	2,642	42.7%	1,145	37.6%	12	32.4%
協力したくない	52	3.9%	344	5.6%	177	5.8%	2	5.4%
協力できない	588	44.4%	2,514	40.6%	1,371	45.0%	13	35.1%
無回答	66	5.0%	370	6.0%	225	7.4%	7	18.9%
計	1,325	100.0%	6,188	100.0%	3,047	100.0%	37	100.0%

36. 「保護者は“食事バランスガイド”を参考にしているか」

選択項目	幼児保護者		小学生保護者		中学生保護者		無回答	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
参考にしている	65	4.9%	442	7.1%	212	7.0%	3	8.1%
時々参考にしている	324	24.5%	1,787	28.9%	860	28.2%	10	27.0%
知っているが参考にはしていない	678	51.2%	3,035	49.0%	1,421	46.6%	12	32.4%
知らない	226	17.1%	764	12.3%	439	14.4%	7	18.9%
無回答	32	2.4%	160	2.6%	115	3.8%	5	13.5%
計	1,325	100.0%	6,188	100.0%	3,047	100.0%	37	100.0%

II 一般市民対象

調査数：配布数2,900枚 回収数892枚 回収率30.8%

1. 「性別」

選択項目	回答数	構成比
男	317	35.5%
女	546	61.2%
無回答	29	3.3%
計	892	100.0%

2. 「年齢」

選択項目	回答数	構成比
20歳代	73	8.2%
30歳代	114	12.8%
40歳代	114	12.8%
50歳代	166	18.6%
60歳代	208	23.3%
70歳代	202	22.6%
無回答	15	1.7%
計	892	100.0%

3. 「職業」

選択項目	回答数	構成比
会社員	184	20.6%
公務員・団体職員	80	9.0%
自営業	53	5.9%
農業	9	1.0%
パート・アルバイト	115	12.9%
専業主婦	167	18.7%
学生	9	1.0%
無職	181	20.3%
その他	47	5.3%
無回答	47	5.3%
計	892	100.0%

4. 「世帯」

選択項目	回答数	構成比
一人暮らし	269	30.2%
夫婦のみ	316	35.4%
一世帯家族	154	17.3%
二世帯家族	96	10.8%
三世帯以上	7	0.8%
無回答	50	5.6%
計	892	100.0%

5. 「配偶者の有無」

選択項目	回答数	構成比
あり	339	38.0%
なし	401	45.0%
無回答	152	17.0%
計	892	100.0%

6. 「“食育”の言葉や意味を知っているか」

選択項目	回答数	構成比
言葉も意味も知っていた	364	40.8%
言葉は知っていたが、意味は知らなかった	385	43.2%
言葉も意味も知らなかった	121	13.6%
無回答	22	2.5%
計	892	100.0%

7. 「“食育”に関心があるか」

選択項目	回答数	構成比
ある	277	31.1%
どちらかといえばある	401	45.0%
どちらかといえばない	105	11.8%
ない	35	3.9%
わからない	64	7.2%
無回答	10	1.1%
計	892	100.0%

8. 「7で“ある”、“どちらかといえばある”と回答した人：関心がある理由」（3つまで）

選択項目	回答数	構成比
心身の健全な発育	367	19.9%
食生活の乱れ	224	12.2%
肥満・やせの増加	95	5.2%
生活習慣病の増加	300	16.3%
食の安全確保	278	15.1%
食文化や地域の伝統	85	4.6%
食料自給率の低下	121	6.6%
生産者との交流	34	1.8%
食べ物の無駄	120	6.5%
食や自然に対する感謝	200	10.9%
その他	5	0.3%
無回答	13	0.7%
計	1,842	100.0%

9. 「朝ごはんを食べるか」

選択項目	回答数	構成比
毎日食べる	684	76.7%
週に1～2日食べないことがある	75	8.4%
週に3～4日食べないことがある	25	2.8%
ほとんど食べない	100	11.2%
無回答	8	0.9%
計	892	100.0%

10. 「9で“食べないことがある”、“食べない”と回答した人：朝ごはんを食べない理由」

選択項目	回答数	構成比
食欲がなくて食べられない	42	21.0%
時間がなくて食べられない	66	33.0%
食べない習慣だから	61	30.5%
その他	27	13.5%
無回答	4	2.0%
計	200	100.0%

11. 「朝ごはんの主食は」

選択項目	回答数	構成比
ごはん	569	63.8%
パン	236	26.5%
その他	43	4.8%
無回答	44	4.9%
計	892	100.0%

12. 「家庭での米は道産米か」

選択項目	回答数	構成比
道産米が多い	573	64.2%
たまに道産米を使う	175	19.6%
ほとんど道産米は使わない	130	14.6%
無回答	14	1.6%
計	892	100.0%

13. 「野菜を食べる頻度」

選択項目	回答数	構成比
1日に3回食べる（毎食）	267	29.9%
1日に1回は食べる	567	63.6%
ほとんど食べない	46	5.2%
無回答	12	1.3%
計	892	100.0%

14. 「乳製品を摂る頻度」

選択項目	回答数	構成比
週に5日以上	415	46.5%
週に3～4日食べる	194	21.7%
週に1～2日食べる	202	22.6%
ほとんど摂っていない	77	8.6%
無回答	4	0.4%
計	892	100.0%

15. 「手料理を作る頻度」

選択項目	回答数	構成比
週に5日以上	511	57.3%
週に3～4日	141	15.8%
週に1～2日	92	10.3%
ほとんど作らない	142	15.9%
無回答	6	0.7%
計	892	100.0%

16. 「手料理の味付け」

選択項目	回答数	構成比
濃いほう	124	13.9%
普通	502	56.3%
薄いほう	258	28.9%
無回答	8	0.9%
計	892	100.0%

17. 「自分の適性体重を知っているか」

選択項目	回答数	構成比
知っている	799	89.6%
知らない	89	10.0%
無回答	4	0.4%
計	892	100.0%

18. 「学校給食パンが地元産小麦と知っているか」

選択項目	回答数	構成比
知っている	292	32.7%
知らない	591	66.3%
無回答	9	1.0%
計	892	100.0%

19. 「農作業体験をしたことがあるか」

選択項目	回答数	構成比
ある	618	69.3%
ない	269	30.2%
無回答	5	0.6%
計	892	100.0%

20. 「地元産食材を使うか」

選択項目	回答数	構成比
よく使う	560	62.8%
たまに使う	289	32.4%
ほとんど使わない	36	4.0%
無回答	7	0.8%
計	892	100.0%

21. 「20で“よく使う”、“たまに使う”と回答した人：地元産食材の購入先」（すべて）

選択項目	回答数	構成比
スーパー	777	61.8%
朝市・夕市	91	7.2%
直売所	304	24.2%
通販	9	0.7%
その他	68	5.4%
無回答	9	0.7%
計	1,258	100.0%

22. 「食品購入の際、気をつけていること」

選択項目	回答数	構成比
安全性	258	28.9%
価格	137	15.4%
産地	141	15.8%
栄養面	25	2.8%
味や好み	32	3.6%
料理の手間	13	1.5%
鮮度（賞味期限）	215	24.1%
その他	6	0.7%
無回答	65	7.3%
計	892	100.0%

23. 「食の安全に不安を感じているか」

選択項目	回答数	構成比
大変不安である	137	15.4%
やや不安である	477	53.5%
それほど不安はない	229	25.7%
まったく不安はない	33	3.7%
無回答	16	1.8%
計	892	100.0%

24. 「23で“大変不安”、“やや不安”と回答した人：不安な内容」（すべて）

選択項目	回答数	構成比
残留農薬	391	26.9%
食品添加物	418	28.7%
表示の偽装	291	20.0%
遺伝子組み換え食品	206	14.2%
異物混入	120	8.3%
その他	21	1.4%
無回答	7	0.5%
計	1,454	100.0%

25. 「どのアスパラを購入するか」

選択項目	回答数	構成比
地元産の標準栽培（200円）	195	21.9%
地元産の減農薬栽培（210円）	152	17.0%
地元産の有機栽培（300円）	130	14.6%
国内産の標準栽培（150円）	144	16.1%
国内産の減農薬栽培（160円）	86	9.6%
国内産の有機栽培（250円）	42	4.7%
外国産の標準栽培（100円）	31	3.5%
外国産の減農薬栽培（110円）	3	0.3%
外国産の有機栽培（200円）	3	0.3%
無回答	106	11.9%
計	892	100.0%

26. 「“食育”の対象者」（3つまで）

選択項目	回答数	構成比
乳幼児（おおむね0～5歳）	417	18.4%
小・中・高校生	636	28.1%
若い世代（おおむね19～39歳）	374	16.5%
中高年の世代（おおむね40～64歳）	131	5.8%
高齢者（おおむね65歳以上）	172	7.6%
妊婦・授乳婦	239	10.6%
ひとり暮らしの人	164	7.2%
医療・介護を受けている人	93	4.1%
その他	19	0.8%
無回答	18	0.8%
計	2,263	100.0%

27. 「“食育”の効果的取り組み主体」

選択項目	回答数	構成比
家庭	468	52.5%
保育所や学校	157	17.6%
行政	99	11.1%
外食産業	18	2.0%
企業	21	2.4%
地域	63	7.1%
その他	9	1.0%
無回答	57	6.4%
計	892	100.0%

28. 「市に期待する役割」（すべて）

選択項目	回答数	構成比
食と健康に関する市民講座や教室を開催する	229	7.4%
学校給食で地元農畜産物の利用を促進する	491	15.9%
直売所など地元農畜産物を購入できる場所を整備する	413	13.4%
市民参加型の体験農園を増やす	113	3.7%
学校・幼稚園などで作物栽培・料理の機会を増やす	300	9.7%
地元農畜産物の安全優位性についての情報発信を積極的に行う	422	13.7%
郷土料理、伝統料理などの優れた食文化の継承に取り組む	199	6.4%
食品の安全性その他食の選択ができるよう情報提供をする	358	11.6%
家庭・学校・地域（団体・企業等）との連携	280	9.1%
学校での総合的な指導	217	7.0%
特にない	28	0.9%
その他	22	0.7%
無回答	18	0.6%
計	3,090	100.0%

29. 「“食育サポーター登録制度”に協力できるか」

選択項目	回答数	構成比
ぜひ協力したい	48	5.4%
協力できる	290	32.5%
協力したくない	88	9.9%
協力できない	388	43.5%
無回答	78	8.7%
計	892	100.0%

30. 「“食事バランスガイド”を参考にしているか」

選択項目	回答数	構成比
参考にしている	95	10.7%
時々参考にしている	235	26.3%
知っているが参考にはしていない	288	32.3%
知らない	245	27.5%
無回答	29	3.3%
計	892	100.0%

Ⅲ 外食産業対象

調査数：配布数100枚 回収数100枚 回収率100%

1. 「業種」

選択項目	回答数	構成比
飲食店	77	77.0%
宿泊施設	2	2.0%
スーパー	0	0.0%
菓子店	3	3.0%
その他	12	12.0%
無回答	6	6.0%
計	100	100.0%

2. 「本社所在地」

選択項目	回答数	構成比
帯広市内	65	65.0%
十勝管内	6	6.0%
道内	9	9.0%
道外	7	7.0%
無回答	13	13.0%
計	100	100.0%

3. 「従業員数」

選択項目	回答数	構成比
1～4人	35	35.0%
5～9人	21	21.0%
10～19人	11	11.0%
20～29人	5	5.0%
30人以上	15	15.0%
無回答	13	13.0%
計	100	100.0%

4. 「“食育”の言葉や意味を知っているか」

選択項目	回答数	構成比
言葉も意味も知っていた	58	58.0%
言葉は知っていたが、意味は知らなかった	36	36.0%
言葉も意味も知らなかった	5	5.0%
無回答	1	1.0%
計	100	100.0%

5. 「“食育”の対象者」（3つまで）

選択項目	回答数	構成比
乳幼児（おおむね0～5歳）	56	21.1%
小・中・高校生	84	31.6%
若い世代（おおむね19～39歳）	58	21.8%
中高年の世代（おおむね40～64歳）	15	5.6%
高齢者（おおむね65歳以上）	13	4.9%
妊婦・授乳婦	20	7.5%
ひとり暮らしの人	9	3.4%
医療・介護を受けている人	8	3.0%
その他	2	0.8%
無回答	1	0.4%
計	266	100.0%

6. 「“食育”の効果的取り組み主体」

選択項目	回答数	構成比
家庭	50	50.0%
保育所や学校	24	24.0%
行政	5	5.0%
外食産業	3	3.0%
企業	2	2.0%
地域	4	4.0%
その他	0	0.0%
無回答	12	12.0%
計	100	100.0%

7. 「貴社は“食育”に関心があるか」

選択項目	回答数	構成比
ある	52	52.0%
どちらかといえばある	26	26.0%
どちらかといえばない	11	11.0%
ない	2	2.0%
わからない	5	5.0%
無回答	4	4.0%
計	100	100.0%

8. 「7で“ある”、“どちらかといえばある”と回答した人：関心がある理由」（3つまで）

選択項目	回答数	構成比
心身の健全な発育	39	18.5%
食生活の乱れ	27	12.8%
肥満・やせの増加	7	3.3%
生活習慣病の増加	15	7.1%
食の安全の確保	34	16.1%
食文化や地域の伝統	19	9.0%
食料自給率低下	9	4.3%
生産者との交流	11	5.2%
自然と調和した食料生産	8	3.8%
食べ物の無駄	13	6.2%
食や自然に対する感謝	23	10.9%
顧客ニーズの高まり	5	2.4%
その他	0	0.0%
無回答	1	0.5%
計	211	100.0%

9. 「貴社は“食育”の取り組みをしているか」

選択項目	回答数	構成比
取り組んでいる	30	30.0%
取り組んでいない	36	36.0%
取り組みたい	19	19.0%
わからない	12	12.0%
無回答	3	3.0%
計	100	100.0%

10. 「9で“取り組んでいる。”“取り組みたい。”と回答した人：取り組み内容」（すべて）

選択項目	回答数	構成比
店舗でのイベントや食育教室の開催	13	11.6%
生産ライン・店舗の見学受け入れ	6	5.4%
製造・調理体験教室の開催	7	6.3%
出前授業の開催	5	4.5%
インターネット上での食育情報の発信	4	3.6%
健康に配慮したメニューの提供	26	23.2%
料理の栄養成分の表示	8	7.1%
その他	6	5.4%
無回答	37	33.0%
計	112	100.0%

11. 「9“取り組んでいない。”と回答した人：取り組まない理由」（すべて）

選択項目	回答数	構成比
興味・関心がない	3	7.3%
自社のメリットがない	4	9.8%
コストがかかる	8	19.5%
取り組み方法がわからない	13	31.7%
その他	9	22.0%
無回答	4	9.8%
計	41	100.0%

12. 「貴社で料理・商品等提供のための取り組み」（すべて）

選択項目	回答数	構成比
衛生管理	82	31.9%
原材料の原産地表示	34	13.2%
添加物の少ない食材利用	52	20.2%
特別栽培農畜産物などの利用	13	5.1%
地元食材の利用	69	26.8%
特に取り組んでいない	1	0.4%
その他	5	1.9%
無回答	1	0.4%
計	257	100.0%

13. 「貴社で食品・食材購入の際に、気をつけていること」

選択項目	回答数	構成比
安全性	47	47.0%
価格	7	7.0%
産地	9	9.0%
栄養面	0	0.0%
味や好み	6	6.0%
調理の手間	1	1.0%
その他	3	3.0%
無回答	27	27.0%
計	100	100.0%

14. 「“フードマイレージ。”の言葉や意味を知っているか」

選択項目	回答数	構成比
言葉も意味も知っていた	32	32.0%
言葉は知っていたが、意味は知らなかった	24	24.0%
言葉も意味も知らなかった	43	43.0%
無回答	1	1.0%
計	100	100.0%

15. 「貴社は“フード・マイレージ”に関心があるか」

選択項目	回答数	構成比
ある	21	21.0%
どちらかといえばある	36	36.0%
どちらかといえばない	17	17.0%
ない	5	5.0%
わからない	17	17.0%
無回答	4	4.0%
計	100	100.0%

16. 「貴社で農畜産物購入する際に、国産品と輸入品を意識するか」

選択項目	回答数	構成比
できるだけ国産農産物を購入	63	63.0%
どちらかという国産農産物を購入	21	21.0%
どちらかという輸入農産物を購入	1	1.0%
できるだけ輸入農産物を購入	0	0.0%
意識していない	12	12.0%
無回答	3	3.0%
計	100	100.0%

17. 「貴社は地元産食材をよく使うか」

選択項目	回答数	構成比
よく使う	66	66.0%
たまに使う	27	27.0%
ほとんど使わない	5	5.0%
無回答	2	2.0%
計	100	100.0%

18. 「17で“よく使う”、“たまに使う”と回答した人：地元産食材の購入先」（すべて）

選択項目	回答数	構成比
市場	24	14.4%
契約農家	35	21.0%
朝市・夕市	10	6.0%
直売所	30	18.0%
スーパー	38	22.8%
その他	26	15.6%
無回答	4	2.4%
計	167	100.0%

19. 「貴社が地元産食材の利用を増やすための課題」（すべて）

選択項目	回答数	構成比
全店共通の商品提供ができない	16	10.5%
地元食材に依存すると、天候不順や自然災害などによる不作時の急な対応が難しい	29	19.0%
加工された食材を利用しているため、原材料の地元産なのかわからない	9	5.9%
価格が高い	30	19.6%
欲しい食材がない	6	3.9%
十勝産の食材（農畜産物）の購入方法がわからない	3	2.0%
食材の調達手段（運搬）が困難	11	7.2%
特に課題はない	23	15.0%
その他	13	8.5%
無回答	13	8.5%
計	153	100.0%

20. 「貴社は“食事バランスガイド”を参考にしているか」

選択項目	回答数	構成比
参考にしている	8	8.0%
時々参考にしている	15	15.0%
知っているが参考にはしていない	37	37.0%
知らない	30	30.0%
無回答	10	10.0%
計	100	100.0%



Obihiro

第2次帯広市食育推進計画



フードバレーとかち

発行日 平成24年3月発行

発行者 帯広市 農政部 農政課

〒089-1182

北海道帯広市川西町基線 61 番地

TEL 0155-59-2323 FAX 0155-59-2448

E-mail agri_center@city.obihiro.hokkaido.jp